

縮尺 20 万 分 の 1

土 地 分 類 図 付 属 資 料

( 富 山 県 )

昭 和 48 年

経 済 企 画 庁 総 合 開 発 局



## 縮尺 20 万分の 1 土地分類図付属資料目次

利用者のために

### A 土地条件等の概要

1. 地形区分とその性状等の概要	1
2. 表層地質の分布とその性状等の概要	1 2
3. 土壌統群の分布とその性状および生産力可能性等の概要	1 3
4. 土地利用現況等の概要	1 7
4-1 土地利用現況の概要	1 7
4-2 土地利用可能性分級の地域別の概要	2 1

### B 統計の部

1. 土地利用現況	2 3
1-1 土地利用現況別面積市町村別内訳	2 3
1-2 D.I.D. おおむね 10 万人以上の都市の土地利用現況の内訳	2 5
2. 自然的土地条件	2 6
2-1 傾斜区分別面積市町村別内訳	2 6
2-2 標高区分別面積市町村別内訳	2 7
2-3 地形区分別面積市町村別内訳	2 8
2-4 表層地質分布面積市町村別内訳	3 0
2-5 土壌統群分布面積市町村別内訳	3 2
3. 土地利用可能性分級	3 4
3-1 土地利用可能性分級別面積市町村別内訳	3 4
3-2 土地利用可能性分級と自然条件との関連	3 5
3-2-1 土地利用可能性分級と地形区分との関連	3 5
3-2-2 土地利用可能性分級と傾斜区分との関連	3 6
3-2-3 土地利用可能性分級と標高区分との関連	3 6
3-2-4 土地利用可能性分級と土壌生産力可能性との関連	3 6
3-3 土地利用可能性分級別主要地域の概要	3 7
3-4 土地利用可能性分級別市町村別内訳	3 9



## 利用者のために

### I 編集方針

この附属資料は縮尺20万分の1土地分類図についての概要説明と面積統計とに分けられるが、面積統計については、原則としてそれぞれの縮尺20万分の1土地分類図の統計項目に対応した図幅について面積を測定し製表作成した。

たとえば2-1表「傾斜区分面積市町村別内訳」は「傾斜区分図」(オーバーレイ)を市町村の行政区画単位の面積測定して作成したものであり、3-2-1表「土地利用可能性分級と地形区分との関連」は「土地利用可能性分級図」および「地形分類図」を用い、前者においては、土地利用可能性分級である類地のパターンを、後者においては地形区分のパターンをそれぞれ重ねあわせて面積を測定し、両者の面積的関連を把握して作成したものである。

ただし、1-2表「D.I.Dおおむね10万人以上の都市の土地利用現況の内訳」は対応した土地分類図を作成しなかったので統計資料等によって作成した。

なお、1-1表「土地利用現況別面積」は県の統計資料により作成した。

以上両者の関連を示すと次表のとおりである。

統計表作成のために使用した土地分類図等の一覧

土地分類図等の 名称		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
統計表の名称		地形 分類 図	起伏 量・谷 密度 図	傾 斜 区 分 図	表(平 面的 地 質 分 類 図)	表(垂 直 的 地 質 分 類 図)	土 壤 図	土 等 土 壤 生 産 力 可 能 性 分 区 分 図	図(土 地 利 用 可 能 性 分 級 図)	土 地 利 用 可 能 性 分 級 図	標 高 区 分 図	都 道 府 県 統 計 資 料 等
1-1	土地利用現況別面積市町村別内訳											○
1-2	D.I.Dおおむね10万人以上の土地利用現況の内訳											○
2-1	傾斜区分別面積市町村別内訳			○								
2-2	標高区分別面積市町村別内訳										○	
2-3	地形区分面積市町村別内訳	○										
2-4	表層地質分布面積市町村別内訳				○							

土地分類図等の 名称  統計表の名称		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
		地形 分類 図	起伏 量・谷 密度 図	傾 斜 区 分 図	表 層 地 質 図 (平 面 的 分 類 図)	表 層 地 質 図 (垂 直 的 分 類 図)	土 壤 図	土 壤 生 産 力 可 能 性 図	土 地 利 用 可 能 性 分 級 図 (土 地 利 用 現 況 図)	土 地 利 用 可 能 性 分 級 図	標 高 区 分 図	都 道 府 県 統 計 資 料 等
2-5	土壤統群分布面積市町村別内訳						○					
3-1	土地利用可能性分級別面積市町村別内訳									○		
3-2-1	土地利用可能性分級と地形区分との関連	○								○		
3-2-2	土地利用可能性分級と傾斜区分との関連			○						○		
3-2-3	土地利用可能性分級と標高区分との関連									○	○	
3-2-4	土地利用可能性分級と土壤生産力可能性との関連							○		○		
3-3	土地利用可能性分級別主要地域の概要	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3-4	土地利用可能性分級別市町村別内訳									○		○

## II 利用上の留意事項

土地分類図の各図から測定された項目別パターンの面積は、各図の図示表現の技術的な制約、すなわち縮尺20万分の1の土地分類図の場合には最小図示単位として1Km<sup>2</sup>(図上では5mm四方)を原則とし、特殊な場合においても最小径400m(図上で2mm)を限度としたため、実在の面積とは一致しない場合もあると考えられる。

とくに、パターンの小さい性格をもつ分類項目にあっては、やや少ない目数に数値が出る傾向がある。また、道路、河川等はその周辺の分類に含まれるのでやや大き目に数値が出る傾向がある。

したがって、この統計表を各種資料として使用する場合には、項目ごとの絶対値を使用するのではなく概括的把握ないし項目の構成比率等を用いるようにされたい。

## III 表中の記号について

「0」は数値が掲載単位に満たないもの

「-」は該当事項のないもの

「 」空白は編集時において資料がなく不明のもの

#### IV 県統計等の資料について

各表の該当箇所(欄外)に記載

#### V 調査機関一覧表

	機 関 名	所 在 地
総 括	富山県農地林務部ほ場整備課	富山市新総曲輪1-7 (TEL. 0764-31-4111)
地 形 分 類	富山大学教育学部	富山市五福3190 (TEL. 0764-41-1271)
表 層 地 質	富山大学教養学部	" ( " )
土 壤	富山県立林業試験場	富山県中新川郡立山町吉峯 (TEL. 0764-83-1511)
	富山県立農業試験場	富山市吉岡1124の1 (TEL. 0764-29-2111)
土 地 利 用 現 況	富山県農地林務部林政課	富山市新総曲輪1-7 (TEL. 0764-31-4111)
	富山県農業水産部農産普及課	" ( " )
土地利用可能性分級	土地利用現況に同じ	





## A 土地条件等の概要



## 1. 地形区分とその性状などの概要

### < 総 説 >

富山県は地体構造上、西南日本内帯の北東端に位置し、東部は北アルプスの大部分を占める高山性山地があり、その北端は親不知の断崖で日本海に臨んでいる。この山地の西側は北アルプスの前山というよりはむしろ縁辺山地というべき山腹斜面とも見られる山地を経え、特長的な丘陵性山地が狭く縁どり、その一部は台地となり、扇状地平野に臨んでいる。

南部は中山性の飛驒山地の北縁山地に当り、それが県の中央部にのびて丘陵性山地となって射水平野に臨んでいる。西部は丘陵性山地が石川県と境し、その山地が北にのびて氷見山地を形成している。

このように富山県の山地は東に高く、南から西に低くなってその間に富山平野を抱いている。富山平野は中央部に突出する呉羽丘陵で2分される。呉東は急流河川で形成された扇状地が複合して平野を形成しているのに対し、呉西では射水の三角平野と庄川の扇状地が礪波平野を形成し、氷見平野が離れて存在する。この平野の前面は能登半島に抱かれた富山湾となっている。

### I 地形の区分

本県の地形区分を行うにあたり、総説で観察した地形の特長を重視して、これを大区分の単位としたが、中区分、小区分の地形地域を設定するに当り、次のように基本的観点で区分した。

中区分は大区分の中でも類似した地形要素をもつ地域を一括した。

小区分は類似した地形要素をもつ地域であっても位置的要素による地形の特長を重視しさらに従来言われていた呼称の範囲を限定して使用した。

区分上特に留意した点は山地と平野との中間というより山地末端に位置し、各河川に分断されている丘陵・台地をどうするかということであった。これらの地形は高山性山地からの急流河川が形成した旧扇状地があるものは開析され、あるものは段丘化したもので、特に立山連峯山麓の地形的特色である。これらが地域によって階段状に配列している。これらの地形は構成的には砂礫台地で地形上丘陵に親縁的である。しかし、この段丘扇状地が新扇状地より傾斜が大きいため、その比高が末端へゆくに従い小さくなり、その地形面は新扇状地下面下に没するようになっており、その地形面は殆ど水田化されていて、平野の一部を構成している。これらの地形は地域的には比較的狭く、各河川によって細分されている。これらの点を考慮して古く高度の高い開析扇状地は丘陵性山地へ、中位または下位の段丘状扇状地は平野に付随させ、地形分類上の基準である台地・丘陵という地形区分を設けて地形地域の細分をさけた。

以上の結果大区分を4地形区とし、その中での中区分を9地形区に、最小地形単位としての小区分を39地形区とした。

#### 1-1-1 東部山地

本県東部の山地と一部の丘陵・台地を一括した。南部山地とは小口川と長棟川・熊野川との流域を分ける西笠山から高杉山に至る山稜線から常願寺川に至る線で区分した。この東部山地の大部分は起伏量600m以上の大起伏山地で、標高は2,000m以上を示す高山性を示す山地および黒部峡谷付近では起伏量1,000m以

上に達する地域が広がっている。

北アルプス山地は立山を主峯とする立山連峯山地と黒部峡谷帯をはさんで後立山連峯を区分した。これらの山地の限界は従来不明瞭であるが、針ノ木谷から平小屋・五色ヶ原に至る線と限定した。黒部川源流の山地は北アルプスの中央部の山地でこれを奥黒部山地と一括した。

立山直下の古立山火山によって形成された溶岩台地とカルデラはこの高山性山地の特異な地形景観を示すのでこれを最小地形単位の1つとしてある。

黒部峡谷は我が国最大の峡谷として特記すべき地形であるので、この両側の連峯山地の山腹斜面の傾斜の変換地点および峡谷側の山稜線をつらねて黒部峡谷帯としての地形区を設定した。この地形区は黒四ダム下流の下の廊下を主とするもので、その上流の上の廊下地帯はその区分が困難なので奥黒部山地の中へ入れて一括している。

立山連峯山地とその縁辺山地との境界は常願寺川から早月の谷に至る早乙女断層の構造線である。また北嶺は猫又・毛勝の山腹で起伏量800m以上の線で、黒部川より以東では猪頭山の稜線から北又谷源流の線で境している。

北アルプス縁辺山地のうち黒東山地は北アルプス末端の前山山地の性格があり、その西限は黒菱山断層崖で境している。黒部三山直下は縁辺山地の性格を明瞭に示す地域で、その西限は白倉山断層崖の地形構造線である。早月川と常願寺川の間は起伏量400m以上の地域となっている。

常願寺川から南は立山連峯とはなれ孤立する鋸崎山山地と和田川をはさむ鉾伏山地および薬師および上岳山麓の有峯・祐延の盆地で、この山地および盆地は北アルプスと飛驒山地との漸移地帯の性格を示すところである。

平野と縁辺山地との間の小起伏山地と大起伏丘陵地を一括して東部丘陵山地とした。この地域は標高においても一段と低い丘陵性山地である。ここに標高の大きい開析扇状地を含めた。黒部以東では棚山台地を、布施川流域では十二貫野を、大谷・坪野山地へは宮津・開山の開析扇状地を、加積山地へは東福寺および松原野台地を含めてある。

## 1-2 南部山地

本県の南部山地は飛驒高原山地の北縁の中山性山地とそれにつづく丘陵性山地である。この山地は岐阜県境で最も高く漸次低下し、本県の中央部にのびる丘陵となっている。その西縁は医王山と蟹谷丘陵の低い鞍部で区分した。この山地では神通川と庄川が飛驒高原から北流するほかはいつでも県境の山地に発する必従河川である。この山地では庄川流帯まで大起伏山地がのびる庄川はこれを峡谷をつくって流れている。この山地を神通川を西限とする長棟・熊野山地と婦負郡南部の婦南山地と利賀川・百瀬川の流域の利賀山地に区分し、礪波南部の山地は高清水山地と庄川流域の五ヶ山山地と医王山・小矢部山地に3分している。これらの地形区の北限は中起伏山地と小起伏山地の境界である起伏量400mで、地形・起伏の特長によって境してある。

この山地の北に接する中部丘陵山地は神通川と常願寺川間は福沢山地で、八尾町周辺山地は神通川と室牧川の丘陵性山地を八尾山地とし、室牧川以西の小起伏山地を山田山地とし、この山田山地の北に接する大起伏丘陵地を音川山地とし、更にその北に接する小起伏丘陵地を射水丘陵と呉羽丘陵に区分してある。

この中央部の丘陵性山地とはなれて、礪波平野南部の大起伏および小起伏丘陵を立野原丘陵として区分した。

### 1-3 西部山地

蟹谷丘陵から以北の県境の丘陵性山地である。これを南から蟹谷丘陵と礪波山・五位山地に区分し、氷見の山地丘陵は上庄川の谷で氷見南部山地と氷見北部山地とに区分し、海老坂の断層を西限とする二上丘陵を区分した。

### 1-4 富山平野

呉羽丘陵で東を呉東平野、西を呉西平野とした。呉東の平野は背後山地が大起伏高山性山地であるため急流が多く、いずれも扇状地を形成し、それが複合した平野となっている。

そのうち黒部扇状地は東端に独立した典型的形状を示すので一地形区としてある。片貝・早月・上市の各扇状地は地域的に比較的小さいが相接した平野を形成しているため、これを一括して新川扇状地とした。これら各扇状地平野にはいずれも旧扇状地の段丘化した地形が付随している。

中部の扇状地は広大な常願寺扇状地と比較的小さい神通川の旧扇状地と新扇状地である。

呉西平野は潟湖の埋積された平野でその限界は必ず標高によらず地形面の性質で区分してある。西部の平野は礪波平野で主として庄川の扇状地である。この平野の末端に堆積から残された高岡の台地がある。

氷見の低地は二上丘陵に隔てられ独立しているため一地形区にしてある。

## <地形詳説>

### A. 東部山地

#### A1 アルプス山地

##### A1-1 立山連峯山地

この連峯は花崗閃緑岩質片麻岩よりなる立山三山即ち浄土山、雄山、大汝山を主体とする。別山へつゞく新期花崗岩と古期閃緑岩を主体となる劔岳を主峯とする切截山形で、大窓の鞍部をはさんで主として花崗岩よりなる猫又・釜谷・巨勝の黒部三山につゞく変成岩類の駒ヶ岳・僧ヶ岳に至る高山性山地である。これらの山稜は2,000~3,000mの峻険な山形を示している。山稜の東側は黒部峡谷となるので西側よりも急斜している。立山から劔岳に至る山稜部を特長づけるものは氷河の浸食地形である。立山の東側では御山谷・御前沢・内蔵之助沢・真砂沢・劔沢の谷頭のカールで、西側には山崎カール・浄土カールがある。劔岳を中心に平蔵谷・長次郎谷・三の窓・小窓の懸垂氷食谷があり、劔の山形を一層鋭いものにしてある。立山の東側には構造性盆地の内蔵之助平があり、内蔵之助沢で南北に2分され、南は崖錐や花崗岩の分解した砂で埋積された平担面であるが北半は丘陵性を示している。

##### A1-2 後立山連峯山地

針の木谷より以北の山地で、南部は新期花崗岩を主体とし、石英斑岩が貫いたところは高い岩峯を示すところが多い。北部の白馬岳から以北は変成岩類・蛇紋岩を主体とする山地で、朝日岳の西の夕日ヶ丘または北のアヤマ平・ノロ岩平の山頂には平担面がある。

この連峯山地の東はフォッサマグナの西辺の断層谷に臨み急斜または急斜面を示すのに比して西側（黒部川）は比較的緩やかなところが多く、非対称性山形を示すところが少ない。南から白馬岳に至る間に大キレット・不帰嶮などの鋭く低い鞍部と鋭く狭い山稜がある。

#### A 1-3 黒部峡谷帯

黒部峡谷は我が国最大の深谷を形成する。主として新期花崗岩で構成され、その岩石の節理に沿って垂直の断崖を形成し、またその流路も岩石の節理と節理に沿う断層に左右されて小さく屈折している。その典型的な例は十字峡を中心にした下の廊下である。本流の侵食が激しいため支流は本流に瀑となって落下するものが多く、飯沢・棒小屋沢の十字状に本流に落下する滝や赤沢・阿曾の滝はその典型的な例である。

#### A 1-4 奥黒部山地

この地域は北アルプス中央部の山地である。薬師岳から上の岳にかけては手取統の砂岩・礫岩・頁岩の互層からなるので石英斑岩の薬師岳の山頂付近をのぞけば平坦で、殊に太郎平は北アルプス中最も広い山稜の平坦な侵食面を示している。黒部源流の山々は三俣連岳(2,841m)・鷲羽岳(2,924m)・野口五郎岳(2,924m)・三岳(2,844m)・黒部五郎岳(2,840m)・赤牛岳(2,864m)・水晶岳(2,977m)と大体2,840~2,924mの間で山頂は等高性を示している。三俣連峯から北東にのびる山稜は三ツ岳より以北は、黒部の支流東谷をめぐる山々で2,500~2,600mの山頂高度を示している。黒部源流山地では黒部川の谷が浅くなるので高度に比して起伏量はそれ程大きくない。

これらの山稜東側の氷河地形はそれぞれ特長がある。薬師岳圏谷群はその形態が典型的であり、黒部五郎岳カールはその羊群岩から見事であり、野口五郎岳カールはモレーンが見事である。水晶岳の東側にも圏谷群がある。

また、この奥黒部山地を特長づけ変化を与えるものは祖父岳火山の雲の平溶岩台地の存在である。

その標高2,500~2,700mで我が国で最も高い溶岩台地を形成している。

#### A 1-5 立山溶岩台地

この溶岩台地が周辺の高山性山地に変化を与えている。立山溶岩台地は立山の直下にあつて、その西側に室堂平・天狗平・鏡石平となり、その下位に広大な弥陀ヶ原の溶岩台地が広がっている。カルデラの東には五色ヶ原の溶岩台地がある。これらの台地面は平坦であるが称名川は150~200mの狭くて深いV字状の谷を形成している。

弥陀ヶ原の台地は古立山火山の第2期の活動期の火礫岩流によって形成された上に泥流がかぶさったものである。この台地面は浅い必従谷で刻まれている。カルデラはこの噴火のあとに形成されたものである。

弥陀ヶ原の上位の鏡石平・天狗平・室堂平はその後の噴火期の活動が形成された溶岩台地である。室堂台地には古立山火山の余勢活動によって地獄谷とミクリガ池の爆裂火口が形成されている。この地獄谷は無数の変化に富んだ噴気孔があり、我が国の地獄としては最も高い位置を示している。また、ミクリガ池は水深15mであるが日本アルプスの高山湖としては最も深いものである。

カルデラの周辺にはドーム状の天狗山・国見岳と鷲岳・鷲岳など2,620m内外の標高を示す安山岩の山々

がある。立山カルデラは東西 3.5 Km・南北 6.5 Kmで周辺の山頂部との比高が1,000 mにも及んでいる。このカルデラの中を跡津断層が通り、安政5年の地震に伴い大鷲山のカルデラ壁が崩壊し、今直常願寺川源流が荒廃し、常願寺川に莫大な土砂を流出している。

## A 2 立山連峯縁辺山地

### A 2-1 黒東山地

後立山北端の山稜から西側にかけての山地で、その大部分は起伏量600 m以上で主として北アルプス前山山地を形成し、主として変成岩類と、境川流域から黒菱山にかけて来馬統の砂岩・泥岩・礫岩からなり、黒菱山断層崖で丘陵性山地に接している。二王山はその断層階に相当する。この山地は標高1,500 mを越えるものが少ないが谷が深く、起伏量が大いのが特長である。

### A 2-2 鳥帽子・白倉山地

立山連峯山地の北部からその西側の縁辺山地で、主として飛驒変成岩類・花崗岩類で構成されている。この山地は白倉山断層崖で丘陵性山地に接している。標高は600～1,500 mぐらいである。

### A 2-3 大辻・高峯山地

東は早乙女断層崖で、北は早月川に限られ、西は新第三紀層の小起伏山地に接する。

東の大起伏山地は主として飛驒変成岩の山地で、中起伏山地の地域は手取統と新第三紀の安山岩質集塊岩よりなり、これらの上に高峯山の安山岩質集塊岩・凝灰岩・泥流などがその中央部を占めている。この高峯山火山地域は各地に窪地・湿地を形成している。

### A 2-4 歙崎・有峯山地

東は常願寺川に限られる和田川流域の山地で、北アルプス山地と飛驒高原山地の漸移地帯の性格を示している。和田川以北の山地は飛驒変成岩よりなる歙崎山から大品山にかけての山地で、弧立して聳える歙崎山(2,090)付近は常願寺川の谷が深いため起伏量1,000 mにも及んでいる。和田川の西側では鉢伏山(1,782 m)を中心とする大起伏の中山性山地である。この南半は北アルプス薬師岳・上の岳山麓の谷盆地で、主として手取統の砂岩・泥岩からなり、跡津断層により有峯の断層角盆地が形成されている。岩石の性質を反映して起伏量は小さい。この有峯盆地の西側に相似的な裕延盆地がある。いずれもダム建設で湖盆となっている。

## A 3 東部丘陵山地

### A 3-1 城山・棚山台地

この地形区は小起伏山地と開析扇状地の古地という異なる2つの地形であるが細分をさけるために一括し一つの地形地域としてある。小川以北の丘陵性山地は砂岩・泥岩に安山岩質集塊岩をはさむ新第三紀層から構成され、城山付近に平坦な山頂を示している。また笹川をはさむ南保山地では池ノ原・奥石谷などの地すべり地の緩斜面がある。南部は断層谷に境された棚山台地で棚といわれ、平坦な地形面を形成し、その標高は320 mで、末端は250 mである。

### A 3-2 十二貫野・布施山地

この地域は布施川流域の田粉の山地と御影の山地の小起伏山地とそれに接する丘陵性山地と十二貫野の開析扇状地を含めてある。

標高は開析扇状地の扇頂付近で380mで、小起伏山地・大起伏丘陵地では300～500mである。いずれも第三紀の砂質、泥岩層で構成されている。

### A 3-3 大谷・坪野山地

東側は白倉山断層崖で境される片見川と早月川間の丘陵性山地で、一部は宮津・出山の旧洪積世の開析扇状地が含まれている。標高は400m内外で、新第三紀の砂岩・泥岩よりなる。この山地には小管沼・坪野などの地すべり性の緩斜面を示すところがある。

### A 3-4 東福寺・加積山地

この山地も北アルプス縁辺山地下の丘陵性山地である。地質は安山岩質凝灰角礫岩・泥岩・砂岩よりなる新第三紀層の山地と東福寺の旧期の扇状地性礫層の丘陵および標高180mの松原野の開析台地が含まれている。小起伏山地の標高は300m内外である。

### A 3-5 大岩山地

大岩を中心とする大岩川流域と上市川の間丘陵性山地で、第三紀凝灰岩・砂岩・泥岩層からなる山地および洪積世前期の礫層からなる標高200～300mの大起伏丘陵地を含む。山地には浅生・骨原などの地すべり地形のほかに、西種の円形に近い湿地がある。

### A 3-6 東谷山地

白岩川と常願寺川の間第三紀の礫岩・砂岩・泥岩の互層からなる小起伏山地と大起伏丘陵地からなり、その中で安山岩または安山岩質凝灰岩よりなる地域は比較的高い山地を形成している。白岩川の流域では目桑・長倉・松原・座主坊・城前などに地すべり性の緩斜面が発達している。

## B 南部山地

### B 1 飛驒高原北縁山地

#### B 1-1 長棟・熊野山地

大起伏山地の長棟川流域と中起伏山地の熊野川の上流地域で地質的にも飛驒高原山地の北縁にあたる中山性山地である。熊野川源流域の中心は高頭山(1,203m)である。長棟川流域は標高1,300m内外で、岐阜県境にまでは浸食の復活はおよんでいないが、その本流の谷は深く起伏量は大きい。人文的には茂住峠(1,027m)や長棟峠(1,155m)は飛驒への通路ともなっていた。この地域は主として手取統の砂岩・



泥岩・礫岩が広く分布しているが、その北部の西南から東北にのびる構造線にはさまれた地域には花崗閃緑岩が分布し、これに接して安山岩および安山岩質集塊岩（岩稜層）が分布する。この付近はこの地域で特に谷が深く、また、これより以北の福沢山地と明瞭な高度差を示している。

#### B 1 - 2 婦南山地

東は神通川の谷、西は大長谷川と百瀬川の間稜線で境される地域で、南部県境に飛騨変成岩類・中部の東側に古期花崗閃緑岩・北部に新第三紀はじめ頃の岩稜の安山岩および安山岩質集塊岩などが広く分布している。標高は県境白木峯で1,500 m内外でそれが東に低く、1,100 m内外となっている。また、北に向って高度が低下するが一樣に大起伏の中山性山地である。北部の泥岩を主体とする八尾山地とは地質を反映した浸食による高度差を示している。河川はいづれも南北方向の分水嶺で境されている。その間の久婦須川・野積川・大長谷川などの河川はいづれも必従谷をつくっている。

#### B 1 - 3 利賀山地

利賀川と百瀬川の流域の山地で南部は中起伏山地を示すが、北部は大起伏山地を示している。この理由は上流で谷が浅く、下流で深いことが原因で、古来五ヶ山の一部をなしているが、むしろ地形的、地質的には婦南山地に類縁的性格を示している。この地域の地すべり地形は利賀川右岸に構造線に沿って泥岩層（楡原累層）がある地域に分布している。

#### B 1 - 4 高清水山地

高清水山（1,147 m）を中心に南西に高く北東で1,000 m以下になる山地で東は庄川峡に面する大起伏山地で、北西は高清水断層崖の急斜面で礪波平野に面している。この山地の山稜部から西半は安山岩質岩石（岩稜層）で庄川の谷に臨む東半は古期花崗閃緑岩で構成されている。この大起伏山地は庄川上流の五ヶ山を隔絶させる地形的要因となっている。また、礪波地方のフェーン現象の要因ともなっている。

#### B 1 - 5 五ヶ山山地

庄川流域の中山性の大起伏山地である。北部の高清水山地と利賀山地は峡谷状をなし、南は岐阜県境の山地西は大獅子山（1,127 m）、猿ヶ山（1,447 m）の山稜にかこまれ、この中を流れる庄川の両岸に河岸段丘が発達し、山間盆地となっている。このような地形環境が古来五ヶ山の特殊な生活様式を発展させ伝承させてきた。

#### B 1 - 6 医王山・小矢部山地

医王山を中心とする中起伏山地と小矢部源流域の大起伏山地である。医王山は新第三紀の流紋岩・火山砕屑岩で構成された山地で石川県に接している山塊である。小矢部川の源流山は岩稜の安山岩累層とそれ以前の流紋岩および火山砕屑岩で時代を異にする第三紀火山岩地帯である。源流の大門山（1,572 m）の山麓と大獅子山の山稜との間はブナオ峠で五ヶ山赤尾谷に通じている。

## B 2 中部丘陵山地

### B 2-1 福沢山地

常願寺川と神通川間の小起伏山地とその北部に接する洪積世の台地である。この丘陵性山地の大部分は新第三紀の砂岩・泥岩・礫岩の互層である。この山地は南部で標高500m内外で北部に低くなり、その末端は洪積台地は主として常願寺川・熊野川の段丘で標高200m以下を示している。この間に熊野川・黒瀬川の必従河川が北へ流れ、その間は南北の分水山地となっている。

### B 2-2 八尾山地

室牧川以東の神通川に限られる小起伏山地と大起伏の丘陵性の山地で、南部で高く300m内外で北で低くなっている。この間、久婦須川、野積川などの河川が北流し、その間に低い分水嶺が南北に連なり、八尾町付近に集中する。これらの河川流域に段丘が形成されている。

### B 2-3 山田山地

山田川流域の小起伏山地で、標高の最高は700mぐらいであるが多くは400~600mで地形新第三紀の泥岩・砂岩の互層からなる。地形面は浸食谷に刻まれ谷密度は大きい。山田川・室牧川は北東方向に流れるが、山田川の谷は断層谷である。

### B 2-4 音川山地

山田山地の北につゞく標高200m内外の丘陵性山地で、新第三紀の泥岩・砂岩層の地域で、地形面の分水線は不連続で浸食谷が迷路のように入りこんで谷密度が大きく、山頂部が平坦な地形面を示している。

### B 2-5 射水丘陵

音川丘陵性山地の北につゞく、標高100m内外のシルト質砂岩または泥岩層、洪積世礫層の丘陵性山地で、青井谷が深くこの山地にのびている。この山地の谷は音川山地よりその密度は小さく減数現象が見られる。しかし、曲りくねた谷が細かく入りこんでいる。洪積世の地礫層をのせているところの山頂では平坦面は比較的広い。

### B 2-6 呉羽丘陵

中部丘陵性山地の末端で北東方向に突出する丘陵である。この丘陵の標高は城山で143mで最も高く北部が低くなっている。東側はいわゆる呉羽山断層崖の急斜面であるが西側から北にかけて緩斜面が広く拡がって丘陵性の台地となっている。その台地に小さな浸食谷をうめた浅い谷が発達している。

### B 2-7 立野原丘陵

礪波平野の南縁にある丘陵で、西側は小矢部川に面し、主として旧期洪積世の礫層よりなる台地である。地形面は比較的平坦で、北部に向かって傾斜している。小矢部川に面するところでは段丘が形成されている。

## C 西部山地

### C 1 西部丘陵性山地

#### C 1-1 蟹谷丘陵

この丘陵は標高200m内外の丘陵性山地で、その山地は北および西側は放射状の必従谷に刻まれている。この丘陵は新第三紀の砂岩・泥岩で構成されているが、その北部では洪積世の礫層がのって台地状を示している。この丘陵北端山麓に標高60～100mの平坦な地形面が発達し谷に刻まれて分離している。

#### C 1-2 礪波山・五位山地

礪波山山地は新第三紀の砂岩を主とする標高100m以下、主として200m内外の丘陵性山地である。その東側山麓には標高100m以下の洪積世丘陵が平野に臨んでいる。

北部は子撫川流域の山地を含む五位山丘陵性山地で、一般に山稜の連続性に乏しい。山頂部は平坦なところが多いが、浸食谷が細く、谷密度は大きい。子撫川は森屋付近で先行性の流路であることを示す。この流域は泥岩層に凝灰岩層をささむ地層が上流に向かって緩く傾いており、一の滝のように地質条件をあらわした滝が形成されており、この下で匭欠群がある。

#### C 1-3 氷見南部山地

この丘陵性山地は泥岩または凝灰質泥岩を主体とする山地で、標高は300m以下を示している。山地は上庄川と仏生寺川およびその支流によって開析されている。尾根線は個別的には連続性を層し、谷密度は五位山地よりおおまかで、小さい。氷見低地を中心に大起伏丘陵地が分布している。この山地には地すべり地形が多く分布し、緩慢な活動性のものも少ない。

#### C 1-4 氷見北部山地

この山地の北西部の大部分は碁石ヶ峯の461mを最高とする小起伏山地で、灘浦に面する地域は大起伏丘陵地となって緩斜し、海食崖で富山湾に面しているところが多い。

この山地は県境から南東方向に泥岩層が単斜構造を示すので、大規模な地すべり地帯となっている。河川は富山湾方向に流れる必従谷を主とし、山頂部には比較的平坦面なところが多く、谷斜面は急斜している。

#### C 1-5 二上丘陵

二上丘陵は西側の海老坂断層で分離した山地を形成し城山(259m)を最高点として、二上山から鉢伏山の平坦な尾根では200m内外の高さを示している。この周辺に海岸段丘が分布する。

## C 富山平野

### D 1 呉東平野

#### D 1-1 黒部扇状地

黒部川が形成した県下の三大扇状地の一つで、東は城山・棚山台地に西側は十二貫野台地に限られ、典型的

な扇状地である。この扇状地の東側には舟見野の段丘化した隆起扇状地があり、新扇状地との比高は扇頂で40mぐらいであるが漸次低下し、末端で新扇状地との比高が消滅している。地形面は全部水田化されている。新扇状地の扇頂の標高は120mに達し、その地形面には流理状に用水網が発達している。扇端の湧水帯にスギ沢が発達し、黒部河口両岸に砂丘帯がある。園家山の砂丘は最も高く、左岸の越湖の砂丘は最も広い。これらの砂丘内の内側は洪水時に湛水し、排水不良で、湿田帯を形成している。扇状地面は耕土が浅いことが特長で、水田の漏水が大きいので流水客土が行なわれた。海岸は海食が激しい。

#### D1-2 新川扇状地

この地域の背後山地は大起伏の高山性山地がせまっているので、片貝川、早月川は平均勾配におい我が国第一の急流となっている。これらの河川の形成した扇状地はそれぞれ相接して新川扇状地平野を形成している。片貝川・早月川はいずれも相似形の段丘化した旧扇状地を形成しており、この地形面は新扇状地面より勾配が大きく末端で新扇状地下に没している。上市川の新扇状地は比較的小さいが右岸に広野の隆起扇状地がある。

白岩川は上市川扇状地および早月川扇状地の末端と常願寺川扇状地の扇側の微地形的凹地を流れ下流の水橋付近で三角州性の低地を形成している。

#### D1-3 中部扇状地

常願寺川と神通川の両扇状地の複合した平野である。常願寺川扇状地は西側に上段の段丘化した扇状地と五百石のある洪積世末の低い扇状地があり、新扇状地はその流路の左岸側に富山市まで広がる大きな扇状地を形成している。

神通川の扇状地は西側に船舩野の段丘化された旧扇状地があり、その下位に大沢野の隆起扇状地がある。神通川新扇状地はこの大沢野扇状地を深く浸食し、その左岸下流を扇頂として形成されているが、その面積は比較的小さい。神通川は下流において常願寺川扇状地の発達のため呉羽丘陵に押しやられ、流域は狭くなっている。

### D2 呉西平野

#### D2-1 射水平野

射水平野は呉羽丘陵の西側に拡がり、庄川および小矢部川下流のデルタに移行する地域を含めた三角州性低地である。この平野は大部分潟湖が埋積された平野で、その埋め残されたのが放生津潟である。放生津潟の周辺は呉東の高燥な扇状地とは異なり、水郷景観を示している。

#### D2-2 礪波平野

礪波平野は大部分庄川の扇状地である。扇頂高度は約100mで、黒部および常願寺扇状地に比し、その扇状地形面は扁平である。この南限は高清水山地の山麓台地を浸食する必 従谷小河川の複合扇状地である。右岸にあたる東側は段丘化した扇状地の栴檀野の台地がある。小矢部川はこの庄川新扇状の発達のため西北側山麓より押しやられ、石動断層崖下の狭い地域を流れ、その下流で集落がある小規模な自然堤防を形成している。小矢部川は庄川扇状地面の灌漑用水の排水をうけて、排水河川の観を呈している。

高岡の古城公園のある台地は洪積世の台地が庄川扇状地末端で埋め残されたものの部分である。

### D 3 氷見平野

氷見平野は二上丘陵で境されて一連の富山平野から独立した平野である。この平野は沖積初期の海浸で入海となった前面に発達した砂丘帯によって瀉湖（布勢の海）となったものが埋積された低地で、十二町瀉は名残りである。この十二町瀉の後背地は深い水路で区画された浮田の観を呈する強湿田で、東部の扇状地とは全く異なる性格を示し、射水デルタ地域よりも一層湿地性が大きい。上庄川下流のデルタ性の平野はこのような景観は示さない。

深井三郎（富山大学）

## 2. 表層地質の分布とその性状等の概要

富山県の地形は山地、丘陵・台地、平野にわけられる。

山地は県の東部と南部に発達している。東部の山地は飛驒山脈の北部にあたり、黒部川により後立山と立山との両山系にわけられている。飛驒山脈は海拔 2,600～3,000 m の山が南北にならび、山頂はかつての準平原面と考えられる。黒部川と山頂との比高は 1,500 m もあり壮年期の地形を示している。飛驒山脈は東から西へ蓮華変成岩類、新期花崗岩、古期花崗岩類、飛驒変成岩類が配列している。これに立山火山、雲の平などの第四紀の火成岩類が貫入している。

立山火山は浅川谷、備名谷によって大きく解析され、特に湯川谷の上流は立山の浸食カルデラであり、大量の土砂を常願寺川に供給している。また黒四周辺のように粗粒な新期花崗岩は風化しやすく深層風化をしている。

南部山地は飛驒変成岩類と古期花崗岩、これらを被り手取層群、第三系の火山岩類から形成されており、海拔 700～1,500 m の高原を形成している。跡津川にそって活断層があり、100年前に地震によって移動したようである。その他はたまたま地すべりがある位である。

丘陵・台地は平野の周辺に分布しており、地形的には丘陵と台地からなっている。丘陵は海拔 500～600 m 以下で第三系の堆積岩から形成されており、台地は洪積層から形成されている。丘陵を形成する堆積岩の走向は富山湾をかこむように分布しており、傾斜は山側で急に、海側で緩やかに海にかたむいている。中新世の黒色泥岩を中心とする地層は傾斜が  $10^{\circ}$ ～ $20^{\circ}$  位で地すべりにもっとも適当な傾斜をしており、またほとんどがモンモリロナイトを主とする泥岩で、地形・岩質ともに地すべりに適し、地すべり多発地帯になっており、多くの千枚田が見られる。

台地は主として洪積層の礫層からなるが、射水、石動丘陵では一部砂泥互層から形成されている。東部では立山連峰の隆起を反映して数段の隆起扇状地にわかれており、海拔 300 m 付近まで分布している。現在無茶な陸砂利の採集が行なわれ、急崖がつくれ、崖くずれによる災害がいくつか起っている。

平野は地形的には扇状地、自然堤防帯、潟埋積平野にわかれ、垂直的には、呉羽山を境にして東部では深さ 500～600 m で第三系に達し西部では 150～200 m で第三系へかわっている。沖積層は海岸部で深さ 60 m 前後のようである。富山においても平野は人間の活動の場で、災害のもっとも多く発生する所である。歴史的にみても平野での水害の形態は時代とともに異なり“災害の進化”がみられる。潟埋積地帯は一部海拔 0 m 地帯で地盤沈下地帯に相当するが、さいわい現在の所局地的な地盤沈下以外は起っていない。しかし新港後背地の利用がすすむにつれて地盤沈下がおこらないとはいえない。

礫波扇状地では散村が有名であるがこれは常願寺川、黒部川扇状地にもみられ、1969年8月の黒部川扇状地での水害が示したように旧河道は生きており、破堤のさい旧河道にそって洪水流は押しよせている。旧河道、谷間など新しく住宅地になるところにちがった形の災害があらわれるであろう。また、射水平野での新港バイパス、八号線バイパスの築堤は平野にとっての堤防となり、新しい水害をひきおこす可能性がある。

藤井昭二(富山大学)

### 3 土壌統群の分布とその性状及び生産力の可能性等の概要

#### 3-1 山地、丘陵性山地の土壌

富山県は東に北アルプス(標高3,000m級)南に飛驒山地、西には水見丘陵性山地がある。これらの障壁に囲まれた1つの地理的単元を形成している。この様な地勢のため、降雨量、降雪量が多く、林地土壌も水分条件に恵まれている。しかし、反面崩壊地も多く、ポドゾル化土壌の分布が多く、高位泥炭土壌も見られるものと考えられる。また積雪の関係から一般に理学的性質は劣り、堅密な土壌が多く分布している。

##### 1 北アルプス山地

標高が高く、起伏量も大きな山地で急峻な地形を呈している。このため土壌層位は浅く岩石地が多く分布している。またそれに伴って岩屑土壌も多い。

立山熔岩台地、山頂平坦面には高位泥炭土壌が見られる。標高約800m以上から乾性ポドゾル化土壌の分布が見られ、さらに標高約1,000m以上には湿性ポドゾル化土壌が普遍的に分布している。山腹中部以下では褐色森林土壌が分布しているが、一般に有効土層は浅い。

この地域における森林限界はやゝ普遍的であるが、標高で約2,400m以上と見られる。中部山岳国立公園地帯であり、自然保護が重点になっている。

##### 2 立山連峯縁辺山地

傾斜は北アルプスに次いで強く、山頂面もかなり急峻な地域である。有峰山地を除くと褐色森林土壌が主体をなし、標高の高い尾根筋に乾性ポドゾル化土壌が分布している。

黒東山地は礫岩を母材とした土壌が多く乾性褐色森林土壌の分布割合が高い傾向を示す。白倉高峰山地は安山岩、流紋岩、花崗閃緑岩等が母材となっている土壌で、一般に褐色森林土壌の適潤な土壌が多く分布している。しかし花崗閃緑岩地帯は小さな崩壊地が多く山腹斜面の土壌は有効土層が浅い。また崩壊地は砂質な土壌からなっている。

有峰山地で有峰湖周辺は盆地地形を呈し、ジュラ紀の堆積岩を母材にした土壌が多い。標高は1,100mから1,900mに位置しポドゾル化土壌の分布が多く、なかでも湿性ポドゾル化土壌が多い。

林地の生産力は、土壌型、気象条件に大きく左右されるから一般に標高が増すに従い生産力が低下している。このことから有峰山地は生産性が低く、黒東山地もやゝ低い生産性を示す。白倉、高峰山地は適潤な土壌が多いことから生産性は高い地域である。

常願寺川の粟巣野周辺には火山泥流を母材とした黒ボク土壌が分布している。この土壌の生産性は中程度と考えられる。

##### 3 飛驒高原北縁山地

立山連峯縁辺山地より安定した地形を呈し、河川数も多く、その溪床勾配もゆるい地域である。母材は安山岩・流紋岩・花崗閃緑岩、ジュラ紀の堆積岩、飛驒変成岩等からなっている。花崗閃緑岩、流紋岩地帯では小面積の崩壊地が多く見られ急傾斜地が多いこの地域も褐色森林土壌が主体をなし標高800m以上の尾根筋に乾

性ポドゾル化土壌が分布している。東笠山、西笠山、白本峰、水無山、奈良岳周辺には湿性ポドゾル化土壌が分布している。

褐色森林土壌の分布については、大沢野町が乾性褐色森林土壌の分布割合がやゝ高い傾向を示すが、他については大差は見られない。

この地域の生産性は全般的には中庸であるが、一般に標高700m以上から高さを増すごとに生産性は低下している。安山岩地帯は安定した地形を呈し、造林地が多く生産性は高い。またジュラ紀の堆積岩を母材にした土壌では環境条件により、生産性の非常に高い土壌がある。しかし反面、環境条件に恵まれない土壌は生産性は他の母材の土壌より低い。

五山山地の一部には黒ボク土壌が小面積づつ分布しているが本図には図示していない。

#### 4 丘陵性山地

北アルプス、飛騨高原が富山平野に延び丘陵性山地を形成している。また石川県境は第3系の丘陵性地からなっている。この丘陵性山地は第3系の堆積を母材とした土壌で褐色森林土壌が主体をなし、赤色土壌、黒ボク土壌の分布があり、一部に未熟土壌が見られる。

赤色土壌は呉羽山、八尾町周辺の鮮新世、呉羽山礫層上に重なって分布している。その他に黒部市、上市町、大沢野町、小杉町の一部で極めて小面積的な分布が見られる。

黒ボク土壌は分布面積の関係で図示されていないものがかなりある。全県的に見て西部丘陵性山地は比較的まとまって分布しているケ所も多く、分布割合も東部丘陵性山地より多い。

氷見南部地域の東縁で氷見市高岡市の一部にかけ砂岩を母材とした残積性未熟土壌が分布している。

褐色森林土壌統群の分布で赤褐色系は赤色土壌に伴って分布している。なお本図では赤色土壌の図示困難なものについては褐色森林土壌（赤褐色系）に含めて図示した。また乾性型は山頂緩斜面に広く分布している。このため他の山地より分布割合が高い。湿性型は水田跡地が主体で弱湿性型（BE型）の分布は少ない。適湿性については全般に山腹斜面が凸形でA層が比較的浅い傾向が見られる。

この地域全体としての生産性はやや低い。しかし西部丘陵性山地にはボカスギの造林地帯があり、このボカスギの成長は旺盛で地位指数は高い。

一般に赤色土壌、未熟土壌、褐色森林土壌（赤褐色系及び乾性型）は生産性が低い。また黒ボク土壌で山頂面に分布するもの及び理学的に劣っているものについては生産性は低い。

上記以外のものは中位～やや高位の生産性を示す。

表1 褐色森林土壌とスギ林の成長

土壌統群	乾性型		適潤型					湿性型
	BB	BC	BD-d 残積土	BD-d 匍行土	BD 残積土	BD 匍行土	BD 崩積土	
※地位指数	1 1.2	1 3.9	1 5.8	1 7.2	1 8.1	2 0.0	2 1.1	2 2.4

※林令40年に換算した平均樹高(m)

野越恒雄（富山県林業試験場）



### 3-2 丘陵、台地の土壌

山地に続いて、大小の丘陵や台地が続いている。

東部丘陵性山地は、ほとんどが洪積世堆積である。高い地区は黄色土壌（赤黄色土）が分布し、黒ボク土壌（黒ボク土）から多湿黒ボク土壌（黒ボク土）が大部である。しかし局部的には褐色低地土壌（褐色低地土）がみられる。したがって、地質母岩の性質が強く反映されていなく、全般に粘質な土性が多い。

飛騨高原山地は、洪積世堆積と、第三紀層の残積土がある。婦負山地は、洪積世堆積が多く、黄色土壌や赤黄色土壌（赤黄色土）が多く分布し、粘質な土性である。しかし、利賀や五ヶ山、小矢部地区は残積土が多く、片麻岩を母材とした砂質の土性が多い。全般的に有効土層の少ない土壌である。

中部丘陵山地は、ほとんど呉羽山層による洪積世堆積土壌で、黄色土壌（赤黄色土）が多く分布し、呉羽丘陵から射水丘陵にかけては黒ボク土壌（黒ボク土）が分布している。また局部的には赤黄色土壌（赤黄色土）もある。

西部丘陵性山地は、残積土と、洪積世堆積がある。氷見には泥炭と砂岩による残積土がある。泥炭による土壌は酸性で粘質な土性が多いが、砂岩による土壌はアルカリ性で、壤質な土性である。そのほとんどが黄色土壌（赤黄色土）である。二上丘陵から氷見の神代地区にかけては、洪積世堆積の腐植が少ない黄色土壌（赤黄色土）が分布している。

これら丘陵、台地の黄色土壌や、黒ボク土壌は、磷酸吸収係数が高く、酸性土壌が多いので、土壌改良をしなければ生産力が劣る。

### 3-3 低地の土壌

富山県の低地土壌は、三方が山に囲まれて北方の富山湾に面している。県の中央部に呉羽丘陵があり、いわゆる呉東、呉西にわかれている。

呉東平野の、黒部川による黒部扇状地は典型的な扇状地を形成しており、県下でも最も粗粒質の灰色低地土壌（灰色低地土）で、礫層土壌の分布が多い。扇状地の末端、海岸線近くの低地では、粗粒グライ土壌（グライ土）がある。しかし、近年基盤整備などにより乾田化しつつあり、灰色低地土壌に移行している。

新川扇状地は、小さいながらも片貝川、早月川、上市川などによって、形成された複合扇状地である。これらの地域は山地から海岸線までの距離が県下でも最も短かく急傾斜地である。土壌は黒部扇状地とほとんど同様に、粗粒灰色低地土壌（灰色低地土）が分布し、下層は砂礫層の場合が多い。

次に多いのは粗粒グライ土壌（グライ土）で、上市川流域と早月川流域の中位部から海岸線まで分布している。灰色低地土壌（灰色低地土）の分布は少なく、早月川右岸にみられる。

中部扇状地は、主として常願寺川と神通川により形成されており、呉東平野で最も大きな扇状地である。扇状地頂点から海岸までの距離が長く傾斜が少ない。扇状地の上部部は粗粒灰色低地土壌（灰色低地土）と灰色低地土壌が多く、頂点近くに多湿黒ボク土壌（黒ボク土）が分布している。中位部では粗粒グライ土壌（グライ土）が多く分布し、下位部はグライ土壌（グライ土）の分布が多い。局部的に細粒グライ土壌があるが、そ

の面積は少ない。

呉西は射水平野と、礪波平野が続いてあり、二上丘陵の西に氷見の海岸平野がある。

射水平野は、ほぼ県下の中央部にあたり、県下でも最も平坦な低地である。

したがって、射水平野のほとんどが細粒グライ土壌（グライ土）である。また庄川右岸の上位部に灰色低地土壌（灰色低地土）があり、中位部には粗粒グライ土壌がそれぞれわずかに分布している。当平野は国営の乾田化事業が進められており、全般的に地下水位の低下がみられ、徐々にグライ土壌から、灰色土壌に移行しつつある。

礪波平野は、庄川と小矢部川によってできた扇状地であるが、ほとんどが庄川によってできた扇状地である。一河川では県下で最も大きい扇状地である。扇状地の中位部より上位部は灰色低地土壌（灰色低地土）が大部分の分布をしめており、粗粒灰色低地土壌（灰色低地土）が庄川に添って分布している。これら沖積世堆積の上位部で洪積世堆積の扇状地頂点近くに褐色低地土壌（褐色低地土）がある。その西側福光町を中心としたところに、多湿黒ボク土壌（黒ボク土）の分布がある。

また扇状地の中位部から下位部の海岸線までは粗粒グライ土壌（グライ土）が大部分である。細粒グライ土壌（グライ土）は高岡市近辺にわずかにある。小矢部川の西部は、ほとんどグライ土壌（グライ土）で、わずかは細粒グライ土壌（グライ土）である。

氷見の海岸平野は、窪から雨晴にかけての砂丘未熟土壌（未熟土）を除いて、ほとんど細粒グライ土壌（グライ土）が分布し、局部的にグライ土壌（グライ土）がみられる。

土壌の生産力については、近年反収が県下ほぼ平均化しつつあり、グライ土壌、細粒グライ土壌は肥沃度が高く全般に反収も高い。また、灰色低地土壌も土壌改良や、技術の向上に伴って低位生産地が少ない。褐色低地土壌も全般に肥沃度がよく反収が高い。反収が劣り、また不安定な土壌は、粗粒グライ土壌や、粗粒灰色低地土壌などの有効土層が少ない土壌である。多湿黒ボク土壌は、褐色低地土壌などより劣るが、粗粒グライ土壌などより反収の高い場合が多い。

岩井俊治（富山県農業試験場）

## 4. 土地利用可能性分級等の概要

### 4-1 土地利用現況の概要

#### (1) 山地

富山県、東経 $136^{\circ}46'$ ～ $137^{\circ}50'$ 、北緯 $36^{\circ}18'$ ～ $36^{\circ}58'$ に位置し、三方を山岳丘陵に囲まれ北部は富山湾に面している。東部は北アルプスに属する立山、後立山山系が連なり、その最高峰は立山の $3,015m$ である。気候的には、典型的な北陸気候を表わし、富山気象台の記録によれば年間降水量 $2,388mm$ 、うち冬期間降水量(11月～2月)は $945mm$ である。この降水量の大半は積雪によるものである。特に北アルプス地帯は平均最深積雪 $4m$ を越える地帯であり、世界的な豪雪地帯である。人文地理的には、飛騨山系から県中央部に海岸に向かってなだらかに細長く延びる呉羽山丘陵によって呉東、呉西に二分され、富山市、高岡市がそれぞれの中心の都市となっている。

林野面積のうち $37\%$ は国有林であるが、国有林のほとんどは海拔 $1,000m$ 以上の施業不可能な山岳地帯に存在し、中部山岳国立公園、白山国立公園と重複している部分が多い。

また、林野のうち保安林の占める割合は $61\%$ で、この率は全国最高位である。平地と山地との境界部の裾山地帯の交通の便のよい部分は第四紀層の弱乾性森林土壌が多く、生産性の低い地域であり、コナラを主体にリョウブ、マンサク、エゴノキなどの雑木と天然生アカマツの混交林が多く分布している。人工林はこの上部の海拔 $200m$ ～ $500m$ の範囲に実行され、奥地は豪雪のため、経済林を仕立てることが困難であり、民有林の人工林率は $25\%$ で、全国最下位を低迷している。なお本県人工造林の特徴として、大正初期にヒノキ、昭和 $27$ ～ $35$ 年にカラマツが導入されたこともあったが不成績に終り、ほとんどがスギの造林であることが挙げられる。

#### ( 東部山地 )

東部山地の東半分は、 $2,500m$ ～ $3,000m$ の山岳の連なる「北アルプス山地」である。北アルプスの北半分にあたる山岳地帯で、立山山系の毛勝山、劔岳、立山、薬師岳、黒部五郎岳と、後立山山系の朝日岳、白馬岳、唐松岳、鹿島槍岳、針の木岳、野口五郎岳、三俣蓮華岳とから成立し、その間を黒部川が狭谷になって北流している。後立山山系は長野県との県境になっている。土地利用上からは、中部山岳国立公園であり、自然保護と山岳レクリエーションとしての利用しかないが、最近千寿ヶ原から立山室堂、黒四ダム、長野県大町を結ぶ立山ルートが開通し、観光客は増加の一途をたどっている。

植生の面からみると、海拔 $1,000m$ ～ $3,000m$ の範囲にあたり、 $2,500m$ 以上は高山性岩石地が多く、ハイマツ帯になっている。谷筋や崩積岩石地では、ダケカンバや高山性草本類が多い。台地形は一般に湿地でチングルマ、イワイチョウが多く、池が点在する。 $1,600m$ ～ $2,400m$ では、岩石の露出した険粗なところが多く、尾根筋にはダケカンバ、オオバスノキ、クロマメノキなどが見られる。斜面は、オオシラビソを主体にシラビソ、コメツガ、ネズコ等の針葉樹林帯を形成している。尾根筋の台地、傾斜面にチシマザサが多く、その他高山性草本類もみられる。排水不良地は湿原となっている。 $1,600m$ 以下はブナ帯が広がっている。

北アルプス山地の西側に、「立山連峯縁辺山地」が広がる。この地帯は海拔300m～1,500mの地帯で800m以上はブナが主体で、タムシバ、ミネカエデ、谷筋や東、北面はミズナラ、トチノキ、ホオノキなどの喬木性広葉樹とともに生立している。ブナ帯以下ではコナラを主体に、リョウブ、エゴノキ、ウリハダカエデなど種々の低木性広葉樹が生育している。ブナ帯に属する瘤杉山、僧ガ岳、細蔵山、大熊山、美女平を中心とした尾根には、天然性のスギが分布し林分状を呈しているところも少なくない。この地帯は古くから薪炭の生産とスギの植栽が行われた地帯であった。現在も、広葉樹林の伐採と人工造林が行われている。

立山連峯縁辺山地のさらに西側の海拔高の低い地帯が「東部丘陵山地」である。立山連峯縁辺山地以上に、伐採等の人手が入っている地帯であるが、第四紀層が多く分布し、天然性のアカマツと広葉樹との針広混交林が多い。「城山柵山台地」は土壌条件がよいので人工造林が進んでいるが、その他の地域も交通の便がよいことから、比較的生産性の低い土壌にもスギの人工林地が存在している。

#### (南部山地)

この地帯の海拔300m以上の地帯が「飛驒高原北縁山地」で、最高点は石川県、岐阜県、富山県三県の県境の交点の笈が岳1,841mである。前節の立山連峯縁辺山地と同じような植生と、利用現況になっている。天然性のスギが、高杉山、御鷹山、細尾峠を中心とした尾根に分布していることも同様である。この地域の利賀村、平村、上平村は全くの山村で、山林に生活を依存する割合が高く、戦後、官行造林、会社造林、公団造林、公社造林などの大面積一斉拡大造林の導入が著しい。

飛驒高原北縁山地の北にあたる丘陵地帯が「中部丘陵性山地」である。海拔100m～300mの丘陵地帯で、水田、畑、山林が複雑に入り組んでいる。生産力の低い土壌が多く、天然性アカマツと広葉樹の混交林が多いが、交通の便利なところから人工造林も比較的進んでいる。県では、この地帯を「県民公園」とし、一大屋外レクリエーション地帯に造成すべく計画中である。

#### (西部山地)

県西部の石川県と隣接する丘陵性の山地である。海拔は20mから最高点の医王山939mまでであるが、ほとんどが500m以上の地域である。この地帯の北部は本県の中では比較的積雪が少なく、温暖な気候であるので、人工造林が進み、ボカスギ林業地として知られている。この地域は新第三紀、四紀の砂岩、頁岩の地帯で、生産力は一般によくなく、一般に尾根は台地形で谷筋は急峻な地形であるが、間作、肥培等により可成り効果をあげている。ブナ帯以下の地帯でコナラその他、種々の落葉広葉樹林が主であるが、暖地系のタブノキ、トベラなども見られ、土壌条件のよくない尾根筋には天然性のアカマツも分布している。本県でクマザサが最も多い地域でもある。二上山丘陵の氷見に面した丘陵には竹林が分布し、タケノコの生産も行われている。

中村喜行(富山県農地林務部林政課)

#### (2) 低地

富山県は農地面積の93%が水田で、残り7%が畑地という変則的な土地利用現況である。本県は年間2,400mm位の降雨量があり、降雪量は近年少ないが、12月から3月の4ヶ月間の積雪は覚悟しなければならない。これらの条件から、農閑期の売薬があり、また北陸一の工業密度を持っているので、農外収入がむし

る農業収入を上回る状態である。これら水稲単作と兼業形態がかなり古くから形成されていたように思われる。したがって、水稲単作で経営規模が小さくても、農家経済は割合豊かな条件下にあったと思われる。

以上のことから農業収入増加の意欲が割合少なく、農外収入が得やすい条件などから、現在でも休耕地はほとんど転作の例が少ない。

水田はほとんどの場合水稲単作が多く、裏作として特徴的なのはチューリップである。

近年そ菜の栽培指定団地が育成され、チューリップの跡や、西瓜、果菜類などの跡作に、大根や白菜などが集団栽培されている。その他、早生の刈取後は自給そ菜の栽培がある。

普通畑は、都市近郊以外はほとんど台地や丘陵に点在しており、数10ha以上のまとまった普通畑団地が少ない。しかし、近年施設園芸も増加しており、水田転用により、人工熱を利用した温室やハウス栽培などがある。

樹園地も少ないが、集団して栽培されているものに、柿、りんご、梨、ぶどう、桃、梅などがある。これらは県内消費にまだ不足する状態であり、一部増殖されている。

その他、茶や煙草の栽培があるが、面積的には少なく、今後の増殖もあまり期待できないと思われる。また牧草地も、早生の刈取後裏作に栽培されているが、転用牧草地は少ない。

#### （黒部扇状地）

粗粒灰色低地土壌や、灰色低地土壌が多いことから、排水良好で耕耘碎土も容易である。したがって、かなり古い時代から黒部西瓜などの転作があり、近年チューリップも急速に増殖されている。これらや煙草作の跡地に大根の集団栽培指定団地があり20haの作付が計画されており、今後も転作率が増大すると思われる。

#### （新川扇状地）

本扇状地の粗粒灰色低地土壌や、灰色低地土壌も、黒部扇状地と似ており、チューリップの作付が増加している。加積地区は県下唯一のりんごの栽培地で、約50haの作付はほとんど水田転用地の粗粒灰色低地土壌である。

近年山地の黄色土壌や、黒ボク土壌で、ぶどうや桃などが増殖されている。

#### （中部扇状地）

中部扇状地は、富山市のそ菜や果菜類の消費地があるが、水田の転用、転作は少ない。呉羽丘陵では普通畑によるそ菜や果菜の生産が多い。むしろ本地域は、労働力を他産業に向けられており、土地の高度利用は今後も少ないものと思われる。

#### （射水平野）

射水平野は、ほとんど細粒グライ土壌であり、水稲単作で、他作物導入は困難である。本地域の多湿黒ボク地は県下の梨の栽培地で、射水丘陵地にも増殖されつつある。また茶や煙草などの作付があるが、黄色土壌での栽培が多く、水田の高度利用の期待が少ない。一部竹の子の生産地もあるが、当地域は果樹の増殖、特に梨の増殖に期待されている。呉羽丘陵の続きで、多湿黒ボク土壌では、ハウス栽培が増加しているが、まだ面積

的には少ない。

(礪波平野)

礪波平野は、灰色低地土壌や粗粒灰色土壌において、チューリップの作付が水田裏作として古くから栽培されてきた。したがって、現況においてもチューリップの栽培が県下で最も多い。米が不足していた時代には、チューリップの掘取り後、晩植水稻の作付がされていたが、近年はそ菜栽培が多い。また礪波平野の上部褐色低地土壌では里芋の集団栽培の指定団地や、白菜の指定団地が福野町を中心としてある。また立野原丘陵の黄色土壌から、福光町の多湿黒ボク土壌にかけて、越の白柿が栽培され、増殖されつつある。グライ土壌での転作は少ないが、高岡市近辺では、果菜類や、そ菜が栽培され、小矢部市ではフキの栽培が近年増加している。

(氷見平野)

氷見平野は、ほとんど細粒グライ土壌が多いため、水田の転作、転用が少ない。一部莓栽培があるが、面積的には少ない。砂丘未熟土壌では、煙草や甘藷が多く栽培されていたが、畑地灌漑施設ができてからは、果菜やそ菜類の栽培が多くなった。

黄色土壌では一部桃の栽培があり、梅は集団栽培が少なく、農家の宅地栽培が多い。当地域では現況で水田の高度利用は困難である。

岩井俊治(富山県農業試験場)

## 4-2 土地利用可能性分級の地域別の概要

富山県の土地利用可能性分級は、所定の分級基準にもとづき、1類地より8類地に区分することができる。

### 1 類地

この類地は、県西北部氷見丘陵地にわずかに分布しているもので標高は低く(H1)傾斜もゆるやかで(S1)土壌の生産力可能性分級(以下P分級と略称する。)の等級が高い(P1)ことによるものである。

### 2 類地

県西部では小矢部川、庄川流域の扇状地性低地に分布し、県中部では庄川、神通川に狭まれた三角洲低地及び神通川、常願寺川流域の扇状低地に、県東部では早月川、白岩川、片貝川、黒部川、境川流域の扇状地性低地に分布している。全般に2類地は標高も低く(H1~H2)、傾斜は平滑で(S1~S2)で農地土壌のP分級等級も高く(P1)になっている。

### 3 類地

県西部では氷見山麓丘陵地及び礪波平野の扇状地の一部、県中部では富山平野の神通川、常願寺川流域の扇状地の一部、県東部では早月川、片貝川、境川流域の扇状地の一部に亘って分布している。これらについても標高は低く(H1~H2)傾斜も(S1~S2)となっており、農地土壌のP分級等級も(P3)であり林地土壌は(P2~P3)である。

### 4 類地

この類地は、本県内において最も広範囲に分布している。西部丘陵山地、医王山高清水、五ヶ山白木峯、音川山田八尾、東部丘陵の各山地に細長く分布し、標高も(H1~H2)と比較的低く、傾斜についても(S1~S4)と多様になっている。林地土壌のP分級等級も(P1~P4)と細かく入り組んでいる。

### 5 類地

県西部五ヶ山白木峯山地及び県東部立山連峯縁辺山地に分布している。一般に標高も高く(H2~H3)傾斜が急で(S4~S5)P分級等級が(P4)となるものである。

### 6 類地

この類地は、北アルプス山地及び立山連峯縁辺山地に広く分布し、医王山高清水山地及び五ヶ山白木峯山地にわずかに分布している。標高も1,000m以上(H3)となっており傾斜についても(S5)P分級等級も(P4~P5)となっている。

### 7 類地

この類地は殆んど立山連峯北アルプスの標高1,500m以上の地域に分布し(H3及び森林限界以上)傾斜が

急(S6)で林地土壌のP分級等級も(P5~P0)と極めて低いことによる。

#### 8 類 地

これは主として富山、高岡、新湊、礪波、小矢部、氷見、滑川、魚津市等の市街地及び黒部、有峯の各湖等である。

松原十三(富山県農地林務部ほ場整備課)



# B 統計の部





1. 土地利用現況

1-1 土地利用現況別面積市町村別内訳

区分 市町村	農地									草地				
	田			畑						農地計	利用草地			未(利原)草地計
	普通田	特殊田	計	普通田	牧草畑	樹園地			永年牧草地		自然草地	計		
						果樹園	桑茶の園	その他						
富山市	106	0	106	5	0	1	1	2	113			-	0	0
高岡市	64	0	64	2	-	0	0	0	66			0	0	0
新湊市	16	-	16	1	-	0	-	0	17			-	-	-
魚津市	28	0	28	2	0	1	0	1	31			-	3	3
氷見市	45	0	45	7	0	1	0	1	53			-	1	1
滑川市	29	-	29	0	0	0	0	0	29			-	1	1
黒部市	30	-	30	1	-	0	-	0	31			-	0	0
礪波市	54	-	54	1	-	0	0	0	55			-	2	2
小矢部市	46	0	46	2	1	0	0	0	49			-	-	-
市計														
大沢野町	18	-	18	2	0	0	-	0	20			0	0	0
大山町	11	-	11	1	0	0	-	0	12			-	10	10
舟橋村	2	-	2	0	-	-	-	-	2			-	-	-
上市町	24	-	24	1	0	0	0	0	25			-	10	10
立山町	43	-	43	1	0	0	0	0	44			-	2	2
朝日町	27	-	27	2	-	0	-	0	29			-	8	8
宇奈月町														
入善町	42	-	42	1	-	-	-	-	43			-	1	1
八尾町	27	-	27	4	0	0	0	0	31			-	1	1
婦中町	30	-	30	1	0	1	0	1	32			-	0	0
山田村	4	-	4	2	0	0	0	0	6			-	0	0
細入村	1	-	1	1	-	0	0	0	2			-	0	0
小杉町	15	-	15	2	0	0	1	1	18			-	0	0
大門町	13	-	13	1	-	0	-	0	14			-	-	-
下村	5	-	5	0	-	-	-	-	5			-	-	-
大島町	5	-	5	0	-	-	-	-	5			-	-	-
城端町	14	-	14	2	0	0	0	0	16			-	0	0
平村	2	-	2	1	0	0	0	0	3			10	1	11
上平村	1	-	1	1	0	0	0	0	2			-	0	0
利賀村	2	-	2	1	-	0	0	0	3			-	6	6
庄川町	6	-	6	1	0	0	-	0	7			-	2	2
井波町	12	-	12	0	0	-	-	-	12			-	0	0
井口村	4	-	4	0	-	-	-	-	4			-	-	-
福野町	20	-	20	0	-	0	-	0	20			-	-	-
福光町	31	-	31	3	-	1	0	1	35			-	-	-
福岡町	16	0	16	1	-	-	-	-	17			-	-	-
町村計														
合計	793	0	793	50	1	5	2	7	851			10	48	58

(単位 Km<sup>2</sup>)

林 地										宅地	公共用地その他	合計	
人工林			天然林			未立木地			竹林、特殊樹林				除地
針葉樹	広葉樹	計	針葉樹	広葉樹	計	採れる草用放し土牧てに地	その他	計					
1	-	1	1	5	6	-	0	0	0	7	27	62	209
5	-	5	1	25	26	0	1	1	0	32	17	36	151
0	-	0	-	-	-	-	-	-	-	0	3	13	33
14	0	14	5	101	106	-	0	0	0	120	4	43	201
29	3	32	2	87	89	1	5	6	4	131	6	39	230
1	-	1	0	5	5	-	0	0	0	6	3	16	55
8	0	8	1	26	27	-	1	1	0	36	4	17	88
4	-	4	1	10	11	-	0	0	-	15	4	20	96
14	-	14	2	43	45	-	1	1	0	60	4	21	134
													1,197
6	-	6	1	32	33	-	2	2	0	41	2	13	76
23	0	23	72	352	424	-	19	19	0	466	1	86	575
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		1	3
15	-	15	19	133	152	-	1	1	0	168	2	32	237
19	0	19	36	85	121	-	1	1	0	141	3	119	309
21	0	21	25	260	285	0	5	5	0	311	2	218	568
3	-	3	0	6	6	-	0	0	-	9	3	16	72
23	0	23	4	147	151	-	11	11	0	185	2	16	235
4	-	4	-	16	16	-	1	1	0	21	3	12	68
6	-	6	-	22	22	-	3	3	0	31	0	4	41
6	0	6	1	28	29	-	2	2	0	37	0	1	40
2	-	2	2	9	11	0	0	0	0	13	2	8	41
0	-	0	0	1	1	0	0	0	-	1	2	5	22
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	5
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	8
9	-	9	0	26	26	-	3	3	0	38	1	11	66
11	0	11	0	63	63	-	0	0	-	74	0	5	93
4	-	4	1	71	72	-	5	5	-	81	0	11	94
28	-	28	0	128	128	0	0	0	-	156	0	11	176
4	0	4	0	11	11	-	0	0	-	15	1	6	31
3	-	3	0	5	5	-	1	1	0	9	1	3	25
4	-	4	0	4	4	-	0	0	-	8	0	0	12
1	-	1	1	1	2	-	0	0	-	3	2	6	31
16	0	16	1	92	93	-	5	5	0	114	3	16	168
6	-	6	0	28	28	-	1	1	0	35	1	6	59
													3,055
290	3	293	176	1,822	1,998	1	68	69	4	2,364	105	874	4,252

(注) 富山県農林水産統計年報(昭四四〜四五)及び富山県統計書(昭四五)による。

1-2 D. I. D. おおむね10万人以上の都市の土地利用現況の内訳

	市街地の内訳									市街地外の内訳						合計		
	商業区	工業区		住宅区	その他				市街地計	農地	草地	林地	宅地	公共用地	その他		計	
		重業 工地	軽業 工地		計	漁業区	運輸区	公共区										計
富山市	5			3	16				5	29	113		7	6		54	180	209
高岡市	4			10	6				3	23	65		32	5		26	128	151
合計	9			13	22				8	52	178		39	11		80	308	360

- 注 ① 本表作成については、行政区域の総面積は、建設省国土地理院発行の全国都道府県市区町村別面積調による。
- ② 市街地の面積は、昭和45年10月1日に実施された国勢調査の附図により面積測定したものである。
- ③ 市街地外的面積については、市の合計面積より市街地の面積を差し引いたものである。

2. 自然的土地条件

2-1 傾斜区分別面積市町村別内訳

市町村	傾斜区分	0~3° S1	3~8° S2	8~15° S3	15~20° S4	20~30° S5	30~40° S6	40°以上 S7	計
富山市		195	5	7	2	-			209Km <sup>2</sup>
高岡市		118	3	9	12	9			151
新湊市		33	-	-	-	-			33
魚津市		41	7	19	14	67	47	6	201
氷見市		21	32	120	47	10	-	-	230
滑川市		33	7	5	5	4	1	-	55
黒部市		37	11	10	6	23	1	-	88
礪波市		79	-	9	5	3	-	-	96
小矢部市		65	13	26	30	-	-	-	134
市計		622	78	205	121	116	49	6	1,197
大沢野町		27	-	4	16	23	6	-	76
大山町		19	6	14	74	367	92	3	575
舟橋村		3	-	-	-	-	-	-	3
上市町		29	2	10	33	87	54	22	237
立山町		51	7	26	30	91	69	35	309
入善町		58	1	2	4	7			72
朝日町		40	10	9	13	229	232	35	568
宇奈月町									
八尾町		23	3	16	42	143	8		235
婦中町		44	-	13	11	-	-		68
山田村		-	-	7	11	19	4		41
細入村		-	-	-	3	33	4		40
小杉町		20	9	6	6	-	-		41
大門町		20	1	1	-	-	-		22
下村		5	-	-	-	-	-		5
大島町		8	-		-	-	-		8
城端町		19	-	7	15	22	3		66
平村		1	1	4	7	69	11		93
上平村		1	1	1	4	63	24		94
利賀村		1	1	5	15	141	13		176
庄川町		12	-	4	4	9	2		31
井波町		16	-	1	4	3	1		25
井口村		5	-	1	2	4	-		12
福野町		27	1	3	-	-	-		31
福光町		41	6	24	24	71	2		168
福岡町		20	-	6	29	4	-		59
町村計		490	49	164	347	1,385	525	95	3,055
合計		1,112	127	369	468	1,501	574	101	4,252





## 2-2 標高区分別面積市町村別内訳

単位 Km<sup>2</sup>

	0~ 100	100~ 200	200~ 400	400~ 600	600~ 800	800~ 1,000	1,000~ 1,500	<sup>m</sup> 1,500以上	
富山市	207	2	-						209
高岡市	134	13	4						151
新湊市	33	-	-						33
魚津市	48	18	36	26	15	14	23	21	201
氷見市	119	64	41	6	-	-	-		230
滑川市	39	10	5	1	-	-	-		55
黒部市	48	12	13	7	2	3	3		88
礪波市	76	12	7	1	-				96
小矢部市	82	40	12	-					134
市計	986	171	118	41	17	17	26	21	1,197
大沢野町	24	16	22	7	5	2	-	-	76
大山町	5	23	33	34	33	35	158	254	575
舟橋村	3	-	-	-	-	-	-	-	3
上市町	34	11	27	29	32	24	44	36	237
立山町	30	28	29	18	14	12	40	138	309
朝日町	32	15	24	42	64	59	147	145	568
宇奈月町	5	14	21						
入善町	56	7	4	2	2	1	-	-	72
八尾町	23	29	34	41	42	27	38	1	235
婦中町	49	18	1	-	-	-	-	-	68
山田村	1	10	16	7	6	1	-	-	41
細入村	-	4	17	7	6	4	2	-	40
小杉町	39	2							41
大門町	22	-							22
下村	5	-							5
大島町	8	-							8
城端町	1	21	18	10	7	6	3	-	66
平村	-	-	13	17	21	22	18	2	93
上平村	-	-	8	12	21	17	33	3	94
利賀村	-	4	8	15	32	34	79	4	176
庄川町	11	7	7	3	2	1	-	-	31
井波町	11	6	4	3	1	-	-	-	25
井口村	1	4	2	2	1	2	-	-	12
福野町	30	1	-	-	-	-	-	-	31
福光町	27	43	30	24	19	15	10	-	168
福岡町	25	18	15	1	-	-	-	-	59
町村計	442	281	333	274	308	262	572	583	3,055
合計	1,228	452	451	315	325	279	598	604	4,252

2-3 地形区分別面積市町村別内訳

地形区分 市町村	山 地 ・ 火 山 地										
	山 地					火 山 地					計
	大 山 起 伏 地	中 山 起 伏 地	小 山 起 伏 地	山 麓 地	小 計	大 山 起 伏 地	中 山 起 伏 地	小 山 起 伏 地	山 麓 地	小 計	
富山市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高岡市	-	-	13	-	13	-	-	-	-	-	13
新湊市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
魚津市	71	31	30	-	140	-	-	-	-	-	140
氷見市	-	-	115	-	115	-	-	-	-	-	115
滑川市	-	2	2	-	4	-	-	-	-	-	4
黒部市	13	11	7	-	31	-	-	-	-	-	31
礪波市	-	-	14	-	14	-	-	-	-	-	14
小矢部市	-	-	27	3	30	-	-	-	-	-	30
市 計	92	44	208	3	347	-	-	-	-	-	347
大沢野町	21	16	10	-	47	-	-	-	-	-	47
大山町	308	163	45	-	516	27	-	-	-	27	543
舟橋村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上市町	135	26	30	-	191	-	9	-	-	9	200
立山町	159	7	27	-	193	44	8	-	-	52	245
朝日町	468	35	21	-	524	-	-	-	-	-	524
宇奈月町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
入善町	1	6	-	-	7	-	-	-	-	-	7
八尾町	58	100	29	-	187	-	-	-	-	-	187
婦中町	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	1
山田村	3	14	17	-	34	-	-	-	-	-	34
細入村	24	14	1	-	39	-	-	-	-	-	39
小杉町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大門町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
下 村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大島町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
城端村	18	9	12	2	41	-	-	-	-	-	41
平 村	74	19	-	-	93	-	-	-	-	-	93
上平村	92	1	-	-	93	-	-	-	-	-	93
利賀村	78	98	-	-	176	-	-	-	-	-	176
庄川町	3	6	6	-	15	-	-	-	-	-	15
井波町	7	-	-	3	10	-	-	-	-	-	10
井口村	6	-	-	2	8	-	-	-	-	-	8
福野町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福光町	23	66	28	-	117	-	-	-	-	-	117
福岡町	-	20	-	-	20	-	-	-	-	-	20
町村計	1,478	600	227	7	2,312	71	17	-	-	88	2,400
合 計	1,570	644	435	10	2,659	71	17	-	-	88	2,747

丘陵・台地・段丘											低地				合 計	
準火山性丘陵			砂礫台地				岩石台地				低地					
大山 起伏地	小山 起伏地	小計	上台 位面地	中台 位面地	下台 位面地	小計	上台 位面地	中台 位面地	下台 位面地	小計	計	扇状 低地	三低 角州地	自然 砂堤丘		小計
3	17	20	-	-	-	-					20	164	24	1	189	209
20	8	28	4	-	4	8					36	85	16	1	102	151
-	-	-	-	-	-	-					-	-	32	1	33	33
12	-	12	6	7	10	23					35	26		-	26	201
61	11	72	-	-	-	-					72	14	26	3	43	230
-	-	-	4	4	2	10					10	40	1	-	41	55
4	-	4	7	4	-	11					15	40	-	2	42	88
9	2	11	6	-	-	6					17	65	-	-	65	96
39	9	48	-	-	-	-					48	56	-	-	56	134
148	47	195	27	15	16	58					253	490	99	8	597	1,197
2	-	2	8	-	14	22					24	5	-	-	5	76
6	4	10	4	-	1	5					15	17	-	-	17	575
-	-	-	-	-	-	-					-	3	-	-	3	3
5	-	5	2	7	1	10					15	22	-	-	22	237
9	-	9	8	-	25	33					42	22	-	-	22	309
2	-	2	5	5	4	14					16	28	-	-	28	568
-	-	-	2	8	-	10					10	55	-	-	55	72
20	-	20	-	-	6	6					26	22	-	-	22	235
22	4	26	2	-	-	2					28	39	-	-	39	68
7	-	7	-	-	-	-					7	-	-	-	-	41
-	-	-	-	-	1	1					1	-	-	-	-	40
-	19	19	-	-	-	-					19	7	15	-	22	41
-	2	2	2	-	-	2					4	17	1	-	18	22
-	-	-	-	-	-	-					-	-	5	-	5	5
-	-	-	-	-	-	-					-	4	4	-	8	8
7	6	13	-	-	-	-					13	12	-	-	12	66
-	-	-	-	-	-	-					-	-	-	-	-	93
-	-	-	-	-	1	1					1	-	-	-	-	94
-	-	-	-	-	-	-					-	-	-	-	-	176
3	-	3	-	-	1	2					5	11	-	-	11	31
-	-	-	-	-	-	-					-	15	-	-	15	25
-	-	-	-	-	-	-					-	4	-	-	4	12
3	1	4	-	-	-	-					4	27	-	-	27	31
6	-	6	-	-	-	10					16	35	-	-	35	168
19	-	19	10	-	-	-					19	20	-	-	20	59
111	36	147	43	21	54	118					265	365	25	-	390	3,055
259	83	372	70	36	70	176					518	855	124	8	987	4,252

2-4 表層地質分布面積市町村別内訳

市町村	未固結堆積物							固結堆積物				
	s	m	gs	Am	gsm	cl	計	cg	ss	ms	alt gsm	計
富山市	39	104	-	53	12	-	208	-	1	-	-	1
高岡市	2	58	3	46	12	-	121	-	11	18	-	29
新湊市	4	29	-	-	-	-	33	-	-	-	-	-
魚津市	3	-	-	28	42	-	73	-	2	10	10	22
氷見市	6	13	-	46	4	2	71	-	28	107	78	153
滑川市	5	3	-	35	10	-	53	-	-	-	-	-
黒部市	7	19	8	5	20	-	59	-	1	2	-	3
礪波市	-	12	7	46	4	-	69	-	2	25	-	27
小矢部市	-	-	-	32	40	-	72	-	15	36	-	51
市計												
大沢野町	-	-	-	-	30	-	30	-	1	-	27	28
大山町	-	-	3	15	8	18	44	21	-	-	182	203
舟橋村	-	-	-	3	-	-	3	-	-	-	-	-
上市町	-	5	-	17	16	1	39	1	-	-	11	12
立山町	3	10	-	26	18	7	64	-	-	-	14	14
朝日町	-	15	-	3	24	-	42	50	1	14	23	88
宇奈月町												
入善町	7	3	15	31	10	-	66	1	-	1	-	2
八尾町	-	6	-	1	30	-	37	-	4	2	40	46
婦中町	-	21	-	20	8	-	49	-	3	16	-	19
山田村	-	-	-	-	-	-	-	-	1	6	20	27
細入村	-	-	-	-	4	-	4	1	-	-	7	8
小杉町	-	21	-	3	5	-	29	-	-	12	-	12
大門町	-	9	-	10	2	-	21	-	-	1	-	1
下村	-	5	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-
大島町	-	8	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-
城端町	-	-	3	-	23	-	26	-	-	-	-	-
平村	-	-	3	-	-	-	3	-	-	-	-	-
上平村	-	-	4	-	-	-	4	-	-	-	-	-
利賀村	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	2	2
庄川町	-	1	-	6	2	0	9	-	-	13	-	13
井波町	-	1	-	4	12	2	19	-	-	-	-	-
井口村	-	-	-	-	6	-	6	-	-	-	-	-
福野町	-	-	21	-	7	-	28	-	-	3	-	3
福光町	-	-	-	3	49	-	52	-	-	15	-	15
福岡町	-	19	-	4	-	-	23	-	18	9	-	27
町村計												
合計	76	362	68	437	398	30	1,371	74	88	290	354	805

Gr(I) Gr(II) Di

火 山 性 岩 石					深 成 岩						變 成 岩			合 計
Ab	r	Ag	Ry	計	Gr g	Gr D	Dj	Gb	SP	計	Sch	Gn	計	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	209
-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	151
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	33
-	-	35	11	46	-	57	3	-	-	60	-	-	-	201
-	4	2	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	230
-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-	55
-	-	7	1	8	-	-	-	-	-	-	-	18	18	88
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	96
-	11	-	-	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	134
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	9	-	9	-	8	-	-	-	8	-	-	-	76
23	-	22	16	61	91	66	58	-	-	215	-	52	52	575
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
-	-	21	22	43	62	-	53	-	-	15	-	27	27	237
43	-	22	16	81	80	5	44	-	-	129	-	21	21	309
3	-	3	63	69	211	20	18	19	9	277	48	44	92	568
-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	4	-	-	-	72
-	1	40	-	41	-	25	-	8	-	33	-	78	78	235
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	68
-	4	3	-	7	-	2	-	-	-	2	-	4	4	41
-	-	4	-	4	-	18	-	2	-	20	-	4	4	40
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	41
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	22
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
-	-	27	13	40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	66
-	-	54	19	63	-	27	-	-	-	27	-	-	-	93
-	-	19	71	90	-	-	-	-	-	-	-	-	-	94
-	-	40	-	40	-	24	-	-	-	24	-	109	109	176
-	5	4	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	31
-	2	4	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25
-	-	6	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	31
-	-	37	64	101	-	-	-	-	-	-	-	-	-	168
-	9	-	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	59
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
69	37	36	286	752	444	257	176	29	9	915	48	357	405	4,252

2-5 土壤統群分布面積市町村別内訳

	岩 屑 土			未 熟 土			黒ボク土			褐 色 森 林 土					
	高山岩屑性土壌	岩屑土壌	計	残積性未熟土壌	海砂成丘堆土積壤	計	黒ボク土壌	多湿黒ボク土壌	計	乾性森林褐色土壌	土壌(赤褐色森林)	褐色森林土壌	褐色(赤褐色系)森林土壌	湿性森林土壌	計
富山市	-	-	-	-	-	-	-	6	6	1	2	2	1	-	6
高岡市	-	-	-	-	1	1	1	1	2	11	-	20	-	0	31
新湊市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	-	-	0
魚津市	-	-	-	-	-	-	3	7	10	19	-	110	-	5	134
氷見市	-	-	-	1	3	4	5	-	5	19	-	101	-	7	127
滑川市	-	-	-	-	-	-	-	6	6	0	-	6	-	-	6
黒部市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	1	37	1	2	51
礪波市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	9	-	1	15
小矢部市	-	-	-	-	-	-	2	-	2	16	-	39	-	3	58
市 計	-	-	-	1	4	5	11	20	31	81	3	324	2	18	428
大沢野町	-	-	-	-	-	-	-	5	5	11	1	29	1	3	45
大山町	64	7	71	-	-	-	4	-	4	54	-	260	-	10	324
舟橋村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上市町	3	12	15	-	-	-	-	7	7	31	0	122	1	6	160
立山町	33	29	62	-	-	-	1	21	22	13	-	98	-	18	129
朝日町	22	27	49	-	-	-	-	2	2	78	-	249	-	7	334
宇奈月町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
入善町	-	-	-	-	-	-	-	2	2	2	-	6	-	1	9
八尾町	-	-	-	-	-	-	-	7	7	39	0	137	6	8	190
婦中町	-	-	-	-	-	-	-	1	1	3	-	14	2	1	20
山田村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	1	22	4	2	34
細入村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	0	29	0	1	38
小杉町	-	-	-	-	-	-	-	2	2	5	0	6	1	0	12
大門町	-	-	-	-	-	-	-	2	2	-	-	1	-	-	1
下 村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大島町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
城端町	-	-	-	-	-	-	-	4	4	11	-	39	-	1	51
平 村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	74	-	2	85
上平村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19	-	64	-	1	84
利賀村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	32	-	117	-	2	151
庄川町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	17	-	0	20
井波町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	9	-	1	11
井口村	-	-	-	-	-	-	-	0	0	3	-	5	-	0	8
福野町	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-	2	-	0	3
福光町	-	-	-	-	-	-	1	11	12	35	-	90	-	7	132
福岡町	-	-	-	-	-	-	3	-	3	8	-	31	-	1	40
町 村 計	122	75	197	-	-	-	9	65	74	371	2	1,321	15	72	1,881
合 計	122	75	197	1	1	5	20	85	105	452	5	1,745	17	90	2,309

ポドゾル			赤黄色土			褐色低地土		灰色低地土			グライ土				泥炭土		岩 石 地	合 計
乾性 ポドゾル	湿性 ポドゾル	計	赤 色 土 壤	黄 色 土 壤	計	褐 色 低 地 土 壤	計	灰 色 低 地 土 壤	粗 低 粒 地 灰 土 色 壤	計	細 粒 グ ライ 土 壤	グ ライ 土 壤	粗 粒 グ ライ 土 壤	計	高 位 泥 炭 土 壤	計		
																	-	-
-	-	-	-	1	1	-	-	5	3	8	6	89	13	108	-	-	-	151
-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	11	21	-	32	-	-	-	33
11	6	17	-	4	4	-	-	2	7	9	-	26	1	27	-	-	-	201
-	-	-	-	2	2	-	-	-	-	-	37	55	-	92	-	-	-	230
-	-	-	-	2	2	-	-	-	24	24	-	-	17	17	-	-	-	55
1	-	1	-	-	-	-	-	17	4	21	-	7	8	15	-	-	-	88
-	-	-	-	-	-	-	-	56	17	73	8	-	-	8	-	-	-	96
-	-	-	-	4	4	-	-	31	8	39	1	29	1	31	-	-	-	134
12	6	18	1	14	15	89	89	120	79	199	84	260	68	412	-	-	-	1,197
1	-	1	-	19	19	2	2	4	-	4	-	-	-	-	-	-	-	76
71	87	158	-	1	1	-	-	6	2	8	2	0	-	2	2	2	5	575
-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	0	2	2	-	-	-	3
14	1	15	-	7	7	3	3	-	-	-	-	1	9	10	-	-	20	237
19	20	39	-	5	5	7	7	22	6	28	-	1	3	4	5	5	8	309
48	20	68	-	0	0	16	16	11	19	30	2	17	-	19	2	2	48	568
-	-	-	-	0	0	2	2	6	46	52	-	3	4	7	-	-	-	72
8	4	12	1	-	1	-	-	2	3	5	-	18	2	20	-	-	-	235
-	-	-	1	-	1	-	-	4	2	6	10	4	26	40	-	-	-	68
-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	6	-	6	-	-	-	41
-	-	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	40
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	22	5	-	27	-	-	-	41
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	6	8	19	-	-	-	22
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	5	-	-	-	5
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	3	0	8	-	-	-	8
-	-	-	-	1	1	10	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	66
5	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	3	-	-	-	93
3	5	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-	-	94
12	10	22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	3	-	-	-	176
-	-	-	-	-	-	2	2	4	5	9	0	-	-	0	-	-	-	31
-	-	-	-	-	-	10	10	4	-	4	-	-	-	-	-	-	-	25
-	-	-	-	1	1	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12
-	-	-	-	1	1	4	4	18	1	19	3	-	-	3	-	-	-	31
1	-	1	-	1	1	8	8	4	-	4	10	-	-	10	-	-	-	168
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	9	6	16	-	-	-	59
182	147	329	3	38	41	67	67	86	84	170	65	81	60	206	9	9	81	3,055
194	153	347	4	52	56	156	156	206	163	369	149	341	128	618	9	9	81	4,252

### 3. 土地利用可能性分級

#### 3-1 土地利用可能性分級別面積市町村別内訳

土地利用可能性分級 市町村	土地利用可能性分級								合計	備考
	1類地	2類地	3類地	4類地	5類地	6類地	7類地	8類地 (未区分比)		
富山市	-	115	78	7	-	-	-	9	209	
高岡市	-	68	43	32	-	-	-	8	151	
新湊市	-	30	-	-	-	-	-	3	33	
魚津市	-	26	31	57	24	51	10	2	201	
氷見市	2	31	127	67	-	-	-	3	230	
滑川市	-	5	39	8	1	0	-	2	55	
黒部市	0	32	25	16	8	7	-	-	88	
礪波市	-	48	31	17	0	-	-	-	96	
小矢部市	1	54	41	35	-	-	-	3	134	
市計									1,197	
大沢野町	-	23	6	37	9	1	-	-	76	
大山町	-	16	12	92	165	192	87	11	575	
舟橋村	-	1	2	-	-	-	-	-	3	
上市町	-	18	18	76	38	47	40	-	237	
立山町	0	49	22	52	35	52	96	3	309	
朝日町	0	35	18	103	81	217	114	-	568	
宇奈月町										
入善町	-	19	42	9	2	-	-	-	72	
八尾町	-	17	18	115	49	36	-	-	235	
婦中町	-	23	31	14	-	-	-	-	68	
山田村	-	-	3	30	8	-	-	-	41	
細入村	-	-	0	29	5	6	-	-	40	
小杉町	-	26	5	10	-	-	-	-	41	
大門町	-	15	7	-	-	-	-	-	22	
下村	-	5	-	-	-	-	-	-	5	
大島町	-	8	-	-	-	-	-	-	8	
城端町	-	16	7	26	14	3	-	-	66	
平村	-	-	1	35	41	16	-	-	93	
上平村	-	-	-	26	25	43	-	-	94	
利賀村	-	-	-	42	94	40	-	-	176	
庄川町	-	6	9	10	6	-	-	-	31	
井波町	-	13	3	5	4	-	-	-	25	
井口村	-	4	2	3	3	-	-	-	12	
福野町	-	29	2	-	-	-	-	-	31	
福光町	0	43	27	59	29	10	-	-	168	
福岡町	-	14	14	31	-	-	-	-	59	
町村計									3,055	
合計	3	789	664	1,043	641	721	347	44	4,252	



3-2 土地利用可能性分級と自然条件との関連

3-2-1 土地利用可能性分級と地形区分との関連

地形区分		土地利用可能性分級	1類地	2類地	3類地	4類地	5類地	6類地	7類地	8類地	合計
山地	山地	大起伏	-	-	4	304	444	506	297	15	1,570
		中起伏	-	-	7	262	165	203	7	-	644
		小起伏	-	22	123	279	11	-	-	-	435
		山麓地	-	4	3	3	-	-	-	-	10
		小計	-	26	137	848	620	709	304	15	2,659
	火山地	大起伏	-	-	-	-	16	12	43	-	71
		中起伏	-	-	1	13	3	-	-	-	17
		小起伏	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		山麓地	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		小計	-	-	1	13	19	12	43	-	88
計		-	26	138	861	639	721	347	15	2,747	
丘陵地	非火山性	大起伏	-	16	133	108	2	-	-	-	259
		小起伏	-	34	27	22	-	-	-	-	83
		小計	-	50	160	130	-	-	-	-	342
	計		-	50	160	130	2	-	-	-	342
台地	砂礫台地	上位面	-	15	34	21	-	-	-	-	70
		中位面	-	24	8	4	-	-	-	-	36
		下位面	-	51	9	10	-	-	-	-	70
		小計	-	90	51	35	-	-	-	-	178
	岩石台地	上位面	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		中位面	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		下位面	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		小計	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	計		-	90	51	35	2	-	-	-	178
	低地	低地	扇状台性	2	510	306	15	-	-	-	22
三角洲性			1	108	7	2	-	-	-	6	124
自然堤防砂洲			-	5	2	-	-	-	-	1	8
計		3	623	315	17	-	-	-	29	987	
合計		3	789	664	1,043	641	721	347	44	4,252	

3-2-2 土地利用可能性分級と傾斜区分との関連

傾斜	土地利用可能性分級	1類地	2類地	3類地	4類地	5類地	6類地	7類地	8類地	合計
0° ~ 3°	(S1)	3	697	375	-	-	-	-	37	1,112
3° ~ 8°	(S2)	-	92	31	-	-	4	-	-	127
8° ~ 15°	(S3)	-	-	255	75	15	11	13	-	369
15° ~ 20°	(S4)	-	-	3	394	38	21	12	-	468
20° ~ 30°	(S5)	-	-	-	569	490	327	108	7	1,501
30° ~ 40°	(S6)	-	-	-	5	98	358	113	-	574
40° ~	(S7)	-	-	-	-	-	-	101	-	101
合計		3	789	664	1,043	641	721	347	44	4,252

3-2-3 土地利用可能性分級と標高区分

標高区分	土地利用可能性分級	1類地	2類地	3類地	4類地	5類地	6類地	7類地	8類地	合計
低暖地帯	(H1)	3	787	656	604	64	-	-	30	2,144
山間地帯	(H2)	-	2	8	439	75	-	-	-	524
高冷地帯	(H3)	-	-	-	-	502	721	250	14	1,487
生産限界外地帯	(H4)	-	-	-	-	-	-	97	-	97
合計		3	789	664	1,043	641	721	347	44	4,252

3-2-4 土地利用可能性分級と土壌生産力可能性との関連

土壌生産力可能性	土地利用可能性分級	1類地	2類地	3類地	4類地	5類地	6類地	7類地	8類地	合計
はなはだよい	(P1)	3	3	29	122	7	-	-	30	194
ややよい	(P2)	-	784	105	212	95	6	2	-	1,204
やや劣る	(P3)	-	2	530	697	535	65	24	-	1,853
劣る	(P4)	-	-	-	12	4	480	23	-	519
はなはだ劣る	(P5)	-	-	-	-	-	170	298	-	468
	(P0を含む)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
未区分地		-	-	-	-	-	-	-	14	14
合計		3	789	664	1,043	641	721	347	44	4,252



3-3 土地利用可能性分級別主要地域の概要

土地利用可能性 地域の概要		1 類 地	2 類 地	3 類 地	4 類 地	
地 域 名 ( 団 地 名 )		西部丘陵山地	礪波・射水・ 氷見平野	富山平野	東部丘陵山地 音川・山田八尾山地	
地 形	傾 斜 ( 谷 密 度 )	S1 ( 0 ~ 3° ) 0 ~ 1	S1~S3 ( 0 ~ 15° ) 1 ~ 17	S1~S3 ( 0 ~ 15° ) 1 ~ 46	S1~S6 ( 0 ~ 40° ) 10 ~ 57	
	標 高 ( 植 栽 限 界 )	4 ( 0 ~ 10 )	20 ( 0 ~ 200 )	20 ( 0 ~ 200 )	300 ( 10 ~ 800 )	
表 層 地 質	岩 石 の 種 類	砂礫	泥・砂・礫・粘土 泥岩	砂・粘土・礫・ 泥岩・碎屑物	流紋岩・泥岩・ 花崗岩・片麻岩・ 砂・礫・粘土・ 互層・安山岩	
	岩 石 の か た さ 代	硬 第三紀 ( 中新生 )	第四紀	第四紀	硬一中 第三紀 ( 中新生 ) 中生代	
土 壤	農 田	土 壤 統 群 生 産 力 可 能 性 分 級	—	粗粒グライ土壌 グライ土壌 黒ボク土壌 灰色低地土壌	粗粒グライ土壌 粗粒灰色低地土壌 黄色土壌	黒ボク土壌 多湿黒ボク土壌 褐色低地土
		畑	—	グライ土壌	グライ土壌	—
	草 地	—	—	—	—	
	林 地	土 壤 統 群	褐色森林土	—	褐色森林土壌 乾性 "	乾性褐色森林土壌 褐色森林土壌 湿性 "
地 位 級		—	—	I - III	I - III	
地 表 水	地 下 水	—	—	—	—	
気 候 区 分						
面 積	土地利用可能性類 地別面積県内合計 (A)	3	789	664	1,043	
	当該地域の類地別 面積県内合計 (B)	2	408	252	674	
	% (B/A)	67	52	38	65	

5 類 地	6 類 地	7 類 地	8 類 地	備 考
医王山・高清水・ 五ヶ山・白木峯山地	立山連峯縁辺山地	北アルプス山地	富山市街地	
S2~S6(3~40°) 10~58	S3~S7(8~ ) 19~58	S3~S7(8~ ) 20~60	S1 (0~3°) 5~6	
500 (200~1,000)	1,300 (400~1,600)	2,000 (600~3,000)	6 (0~15)	
泥岩・流紋岩・ 安山岩・片麻岩・ 花崗岩  硬一中 第三紀(中生代) 先中世代	礫岩・互層・ 花崗岩・片麻岩・ 内縁岩・安山岩・ 流紋岩 硬 中生代 先中世代	流紋岩・蛇紋岩・ 結晶片岩・花崗岩 内縁岩・安山岩・ 互層  第四紀・中生代 先中生代	泥・礫・砂  第四紀	
—	—	—	—	
—	—	—	—	
—	—	—	—	
乾性褐色森林土壌 褐色森林土壌  I—III	乾性褐色森林土壌 褐色森林土壌 乾性ポドゾル土壌 湿性 "	乾性褐色森林土壌 (赤褐色) 高山岩屑性土壌 岩屑性土壌 乾性ポドゾル化土壌 湿性 "	—	
	I—III—IV	III—IV—V		
641  211  33	721  283  39	347  341  98	44  9  22	計 4,252

3-4 土地利用可能性分級別市町村別内訳

市 町 村 名	類 地 区 分		土 地 利 用					
			水 田		畑			
	土地利用 占有率	平均収 穫量率			普 通 畑		樹 園 地	
			土地利用 占有率	主要作物 および平均 収穫量率	土地利用 占有率	主要作物 および平均 収穫量率		
富 山 市	1							
	2	1.12 1.22	115	A	水稻 100			
	3	1.13 1.32	78	A	" 98			
	4	1.34 1.44	7					
	5							
	6							
	7							
	8		9					
市 町 村 計 ( 地域計 )		209						
高 岡 市	1	1.11	0					
	2	1.12 1.22	68	A	水稻 102			
	3	1.13 1.32 1.33	43	A	" 100	D	大豆 107	
	4	1.42 1.43 1.44	32					
	5							
	6							
	7							
	8		8					
市 町 村 計 ( 地域計 )		151						

用 の 現 況							備 考
草 地		林 地				空地その他	
土 地 利 用 占 有 率	草地の種類 および平均 収 穫 量 率	人 工 林		天 然 林		土 地 利 用 占 有 率	
		土地利用 占 有 率	主 要 樹 種 および平均 収 穫 量 率	土地利用 占 有 率	主 要 樹 種 および平均 収 穫 量 率		
				D	広葉樹 ザ ツ		
				D	広葉樹 ザ ツ		
						A	
		D	スギ 98				
		C	スギ 92	B	広葉樹 ザ ツ		
						A	

市 町 村 名	類 地 区 分		土 地 利 用					
			水 田		畑			
	土地利用 占有率	平均収 穫量率			普 通 畑		樹 園 地	
			土地利用 占有率	主要作物 および平均 収 穫 量 率	土地利用 占有率	主要作物 および平均 収 穫 量 率		
新 湊 市	1							
	2	1.12	30	A	水 稻 101	D	大 豆 95	
	3							
	4							
	5							
	6							
	7							
	8		3					
市 町 村 計 ( 地域計 )		33						
魚 津 市	1							
	2	1.12 1.22	26	A	水 稻 101		D	りんご 100
	3	1.13 1.33 1.31 2.32 1.32	31	A	水 稻 98	D	大 豆 93	
	4	1.41 2.42 1.42 2.43 1.43	57					
	5	1.51 2.53 1.52 3.42 2.52 3.43	24					
	6	3.44 3.52 3.55 3.45 3.53 3.51 3.54	51					
	7	2.62 3.64 2.63 3.65 3.50 3.65	10					
	8		2					
市 町 村 計 ( 地域計 )		201						



用 の 現 況							備 考
草 地		林 地				空地その他	
土 地 利 用 占 有 率	草地の種類 および平均 収 穫 量 率	人 工 林		天 然 林		土 地 利 用 占 有 率	
	土地利用 占有率	主 要 樹 種 および平均 収 穫 量 率	主 要 樹 種 および平均 収 穫 量 率	土 地 利 用 占 有 率	主 要 樹 種 および平均 収 穫 量 率		
		A	スギ 109				
		D	スギ 98	B	広葉樹ザツ		
		C	スギ 96	C	広葉樹ザツ		
		D	スギ 98	B	広葉樹ザツ		
				A	広葉樹ザツ		

市 町 村 名	類 地 区 分  類地区分および包含される 示 性 式		土 地 利					
			水 田		畑			
					普 通 畑		樹 園 地	
面積	土地利用 占有率	平均収 穫量率	土地利用 占有率	主要作物 および平均 収穫量率	土地利用 占有率	主要作物 および平均 収穫量率		
黒 部 市	1							
	2	1.12 1.22	32	A	水 稻 105			
	3	1.13 1.32 1.23 1.33 1.31 2.32	25	A	98			
	4	1.24 2.42 1.42 2.43 1.43	16					
	5	1.52 3.43 2.52 3.42	8					
	6	3.44 3.45 3.53	7					
	7							
	8							
市 町 村 計 ( 地域計 )		88						
礪 波 市	1							
	2	1.12	48	A	水 稻 107			
	3	1.13 1.33 1.31 1.32	31	A	" 102			
	4	1.41 2.42 1.42 2.43 1.43	17					
	5							
	6							
	7							
	8							
市 町 村 計 ( 地域計 )		96						

市 町 村 名	類 地 区 分 面積		土 地 利 用					
			水 田		畑			
					普 通 畑		樹 園 地	
類地区分および包含される示性式	面積	土地利用占有率	平均収穫量率	土地利用占有率	主要作物および平均収穫量率	土地利用占有率	主要作物および平均収穫量率	
氷 見 市	1	1.11	2					
	2	1.12 1.21 1.22	31	A	水 稻 104			
	3	1.13 1.32 1.23 1.33 1.31 2.32	127	C	" 96	D	かんしょ 111	
	4	1.41 2.43 1.42 1.43	67	C	" 94			
	5							
	6							
	7							
	8		3					
市 町 村 計 ( 地域計 )		230						
滑 川 市	1							
	2	1.12 1.22	5	A	水 稻 104			
	3	1.13 1.23 1.32	39	A	" 100			
	4	1.41 1.42 1.43	8	D	" 94			
	5	2.52	1					
	6							
	7							
	8		2					
市 町 村 計 ( 地域計 )		55						

用 の 現 況							備 考
草 地		林 地				空地その他	
土 地 利 用 占 有 率	草地の種類 および平均 収 穫 量 率	人 工 林 土 地 利 用 占 有 率	主 要 樹 種 および平均 収 穫 量 率	天 然 林 土 地 利 用 占 有 率	主 要 樹 種 および平均 収 穫 量 率	土 地 利 用 占 有 率	
						A	
				D	広葉樹ザツ 混交林ア ツ・ザツ		
		D	スギ 98	A	広葉樹ザツ		
				A	広葉樹ザツ		
				A	広葉樹ブナ		
				A	広葉樹ブナ		
						A	

用 の 現 況							備 考
草 地		林 地				空地その他	
土 地 利 用 占 有 率	草地の種類 および平均 収 穫 量 率	人 工 林		天 然 林		土 地 利 用 占 有 率	
		土 地 利 用 占 有 率	主 要 樹 種 および平均 収 穫 量 率	土 地 利 用 占 有 率	主 要 樹 種 および平均 収 穫 量 率		
				D	広葉樹ザツ		
		D	スギ 96	A	広葉樹ザツ 混交林アカ マツ・ザツ		
				A	広葉樹ブナ		
				A	広葉樹ブナ		
		D	スギ 96	D	混交林アカ マツ・ザツ		
		C	スギ 92	B	広葉樹ザツ		

市 町 村 名	類 地 区 分		土 地 利						
			水 田		畑				
	土地利用 占有率	平均収 穫量率			普 通 畑		樹 園 地		
			土地利用 占有率	主要作物 および平均 収穫量率	土地利用 占有率	主要作物 および平均 収穫量率			
小 矢 部 市	1	1.11	1						
	2	1.12 1.21 1.22	54	A	水 稻 104				
	3	1.13 1.33 1.31 1.32	41	B	" 101				
	4	1.41 1.42 1.43	35	D	" 96				
	5								
	6								
	7								
	8		3						
市 町 村 計 ( 地域計 )		134							
大 沢 野 町	1								
	2	1.12	23	A	水 稻 94				
	3	1.13 1.32 1.33	6	A	" 90				
	4	1.41 2.41 1.42 2.42 1.43 2.43	37						
	5	1.52 3.42 2.52 3.43 2.53	9						
	6	3.44 3.45	1						
	7								
	8								
市 町 村 計 ( 地域計 )		76							

用 の 現 況							備 考
草 地		林 地				空地その他	
土 地 利 用 占 有 率	草地の種類 および平均 収 穫 量 率	人 工 林		天 然 林		土 地 利 用 占 有 率	
		土 地 利 用 占 有 率	主 要 樹 種 お よ び 平 均 収 穫 量 率	土 地 利 用 占 有 率	主 要 樹 種 お よ び 平 均 収 穫 量 率		
		A	スギ 109				
				C	広葉樹ザツ 混交林アカ マツ		
		C	スギ 98	B	広葉樹ザツ		
		D	スギ 96	A	広葉樹ザツ 混交林アカ マツ		
				A	広葉樹ザツ		
				A	広葉樹ザツ		

市 町 村 名	類 地 区 分  類地区分および包含される 示 性 式		土 地 利 用					
			水 田		畑			
					普 通 畑		樹 園 地	
面積	土地利用 占有率	平均収 穫量率	土地利用 占有率	主要作物 および平均 収穫量率	土地利用 占有率	主要作物 および平均 収穫量率		
大 山 町	1							
	2	1.12 1.22 2.21	16	A	水 稻 98			
	3	1.13 2.22 1.32 1.33	12	A	" 94			
	4	1.41 1.44 1.42 2.42 1.43 2.43	92					
	5	1.51 3.42 2.52 3.43 2.53	165					
	6	3.35 3.53 3.44 3.54 3.45 3.55	192					
	7	3.64 3.40 3.65 3.50 3.30 3.60	87					
	8		11					
市 町 村 計 ( 地域計 )		. 575						
舟 橋 村	1							
	2	1.13	1	A	水 稻 100			
	3	1.12	2	A	" 98			
	4							
	5							
	6							
	7							
	8							
市 町 村 計 ( 地域計 )		3						



用 の 現 況							備 考
草 地		林 地				空地その他	
土 地 利 用 占有率	草地の種類 および平均 収穫量率	人 工 林 土地利用 占有率	主 要 樹 種 および平均 収穫量率	天 然 林 土地利用 占有率	主 要 樹 種 および平均 収穫量率	土 地 利 用 占有率	
		D	スギ 98	A	広葉樹ザツ		
				A	広葉樹ブナ 針葉樹 オオシラビン		
				A	針葉樹 オオシラビン		
				A	ハイマツ 岩石地		

市 町 村 名	類地区分  類地区分および包含される 示性式		土 地 利 用					
			水 田		畑			
					普 通 畑		樹 園 地	
面積	土地利用 占有率	平均収 穫量率	土地利用 占有率	主要作物 および平均 収穫量率	土地利用 占有率	主要作物 および平均 収穫量率		
上 市 町	1							
	2	1.12 1.22	18	A	水 稻 92			
	3	1.13 2.31 1.23 2.32 1.32	18	A	〃 91	D	大 豆 99	
	4	1.41 1.44 1.42 2.42 1.43 2.43	76					
	5	1.52 3.43 2.52 3.42	38					
	6	3.44 3.53 3.45 3.54 3.52 3.55	47					
	7	3.64 3.50 3.65 3.60 3.40	40					
	8							
市 町 村 計 ( 地域計 )		237						
立 山 町	1	1.11	0				大 豆 96	
	2	1.12 1.22	49	A	水 稻 101			
	3	1.13 1.31 1.32	22	A	〃 98			
	4	1.41 2.41 1.42 2.42 1.43 2.43	52					
	5	2.52 3.43 3.33 3.42	35					
	6	3.25 3.45 3.54 3.34 3.52 3.55 3.35 3.53	52					
	7	3.63 3.30 3.60 3.64 3.40 3.65 3.50	96					
	8		3					
市 町 村 計 ( 地域計 )		309						

用 の 現 況							備 考
草 地		林 地				空地その他	
土 地 利 用 占 有 率	草地の種類 および平均 収 穫 量 率	人 工 林		天 然 林		土 地 利 用 占 有 率	
		土 地 利 用 占 有 率	主 要 樹 種 お よ び 平 均 収 穫 量 率	土 地 利 用 占 有 率	主 要 樹 種 お よ び 平 均 収 穫 量 率		
		D	スギ 98	A	広葉樹ザツ		
				A	広葉樹ブナ		
				A	針葉樹 オオシラビン		
				A	ハイマツ 岩石地		
				D	広葉樹ザツ 混交林アカ マツ・ザツ		
		D	スギ 100	A	広葉樹ザツ		
				A	広葉樹ブナ		
				A	針葉樹 オオシラビン		
				A	ハイマツ 岩石地		

市 町 村 名	類 地 区 分		土 地 利 用							
			水 田		畑					
	土地利用 占有率	平均収 穫量率			普 通 畑		樹 園 地			
			土地利用 占有率	主要作物 および平均 収穫量率	土地利用 占有率	主要作物 および平均 収穫量率				
宇 奈 月 町 朝 日 町	1	1.11	0							
	2	1.12	35	A	水 稻 103					
		1.22								
	3	1.13	18	A	" 98					
		1.32								
		1.33								
	4	1.41	103							
		1.42								
1.43										
5	1.51	81								
	1.52									
	1.53									
6	3.44	217								
	3.45									
	3.53									
7	263	114								
	363									
	364									
8	365									
市 町 村 計 ( 地域計 )		568								
入 善 町	1									
	2	111	19	A	水 稻 106					
		122								
	3	113	42	A	" 104					
	4	1.41	9			D	大 豆 95			
		1.42								
		1.43								
	5	343	2							
6										
7										
8										
市 町 村 計 ( 地域計 )		72								

用 の 現 況							備 考
草 地		林 地				空地その他	
土 地 利 用 占有率	草地の種類 および平均 収穫量率	人 工 林		天 然 林		土 地 利 用 占有率	
		土地利用 占有率	主 要 樹 種 および平均 収穫量率	土地利用 占有率	主 要 樹 種 および平均 収穫量率		
		D	スギ 92	A	広葉樹ザツ		
				A	広葉樹ブナ		
				A	針 葉 樹 オオシラビソ		
				A	ハイマツ 岩石地		
		D	スギ 98	B	広葉樹ザツ 混交林アカ マツ・ザツ		
				A	広葉樹ブナ		

市 町 村 名	類 地 区 分  類地区分および包含される示性式		土 地 利 用					
			水 田		畑			
					普 通 畑		樹 園 地	
面積	土地利用 占有率	平均収 穫量率	土地利用 占有率	主要作物 および平均 収穫量率	土地利用 占有率	主要作物 および平均 収穫量率		
八 尾 町	1							
	2	1.1 2 1.2 2	17	A	水 稻 94	D	大 豆 96	
	3	1.1 3 1.3 2 1.3 3	18	A	" 90			
	4	134 143 242 141 144 243 142 241	115					
	5	2.5 2 3.4 2 3.4 3	49					
	6	3.4 4 3.5 4 3.4 5 3.5 5 3.5 3	36					
	7							
	8							
市 町 村 計 ( 地域計 )		72 (163) 235						
婦 中 町	1							
	2	1.1 2 1.2 2	23	A	水 稻 98			
	3	1.1 3 1.3 3 1.2 3 1.3 2	31	B	" 94			
	4	1.3 4 1.4 3 1.4 1 1.4 4 1.4 2	14					
	5							
	6							
	7							
	8							
市 町 村 計 ( 地域計 )		68						

用 の 現 況						備 考
草 地		林 地			空地その他	
土 地 利 用 占有率	草地の種類 および平均 収 穫 量 率	人 工 林		天 然 林		
		土地利用 占有率	主 要 樹 種 および平均 収 穫 量 率	土地利用 占有率	主 要 樹 種 および平均 収 穫 量 率	
				D	混交林アカ マツ・ザツ	
		D	スギ 96	A	広葉樹ザツ 混交林アカ マツ・ザツ	
				A	広葉樹ブナ	
		D	スギ 96	D	混交林アカ マツ・ザツ	
		C	スギ 90	B	混交林アカ マツ・ザツ	

市 町 村 名	類 地 区 分		土 地 利 用					
			水 田		畑			
	土地利用 占有率	平均収 穫量率			普 通 畑		樹 園 地	
			土地利用 占有率	主要作物 および平均 収穫量率	土地利用 占有率	主要作物 および平均 収穫量率		
類地区分およ び包含される 示 性 式	面 積							
山 田 村	1							
	2							
	3	1.33	3					
	4	1.41 1.44 1.42 2.42 1.43 2.43	30	D	水 稻 91			
	5	1.51 2.53 1.52 3.42 2.52 3.43	8					
	6							
	7							
	8							
市 町 村 計 ( 地域計 )		41						
細 入 村	1							
	2							
	3	1.13						
	4	1.41 2.42 1.42 2.43 1.43	29					
	5	2.51 3.43 2.52 3.42	5					
	6	3.44 3.54 3.45 3.55 3.53	6					
	7							
	8							
市 町 村 計 ( 地域計 )		40						



用 の 現 況						備 考	
草 地		林 地					空地その他
土 地 利 用 占有率	草地の種類 および平均 収 穫 量 率	人 工 林		天 然 林			
		土地利用 占有率	主 要 樹 種 および平均 収 穫 量 率	土地利用 占有率	主 要 樹 種 および平均 収 穫 量 率		
		C	スギ 98	B	混交林アカ マツ・ザツ		
		D	スギ 96	A	広葉樹ザツ 混交林アカ マツ・ザツ		
				A	広葉樹ザツ		
		D	スギ 90	A	広葉樹ザツ		
				A	広葉樹ブナ		
				A	広葉樹ブナ		

市 町 村 名	類地区分 面積		土 地 利					
			水 田		畑			
					普 通 畑		樹 園 地	
類地区分および包含される示性式	面積	土地利用占有率	平均収穫量率	土地利用占有率	主要作物および平均収穫量率	土地利用占有率	主要作物および平均収穫量率	
小 杉 町	1							
	2	1.12 1.22	26	A	水 稻 106			
	3	1.23 1.32 1.33	5			A	かんしょ 111	
	4	1.24 1.42 1.34 1.43 1.41	10					
	5							
	6							
	7							
	8							
市 町 村 計 ( 地域計 )		41						
大 門 町	1							
	2	1.12 1.22	15	A	水 稻 104			
	3	1.13 1.32	7	A	" 102			
	4							
	5							
	6							
	7							
	8							
市 町 村 計 ( 地域計 )		22						

用 の 現 況							備 考
草 地		林 地				空地その他	
土 地 利 用 占 有 率	草地の種類 および平均 収 穫 量 率	人 工 林		天 然 林		土 地 利 用 占 有 率	
		土 地 利 用 占 有 率	主 要 樹 種 および平均 収 穫 量 率	土 地 利 用 占 有 率	主 要 樹 種 および平均 収 穫 量 率		
				D	混交林アカ マツ・ザツ		
		C	スギ 90	B	混交林アカ マツ・ザツ		

市 町 村 名	類 地 区 分		土 地 利					
			水 田		畑			
	土地利用 占有率	平均収 穫量率			普 通 畑		樹 園 地	
			土地利用 占有率	主 要 作 物 および平均 収 穫 量 率	土地利用 占有率	主 要 作 物 および平均 収 穫 量 率		
下 村	1							
	2	1.12	5	水 稻 A	107			
	3							
	4							
	5							
	6							
	7							
	8							
市 町 村 計 ( 地域計 )		5						
大 島 町	1							
	2	1.12	8	水 稻 106				
	3							
	4							
	5							
	6							
	7							
	8							
市 町 村 計 ( 地域計 )		8						

用 の 現 況							備 考
草 地		林 地				空地その他	
土 地 利 用 占有率	草地の種類 および平均 収穫量率	人 工 林		天 然 林		土 地 利 用 占有率	
		土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収穫量率	土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収穫量率		

市 町 村 名	類 地 区 分		土 地 利					
			水 田		畑			
	土地利用 占有率	平均収 穫量率			普 通 畑		樹 園 地	
			土地利用 占有率	主要作物 および平均 収穫量率	土地利用 占有率	主要作物 および平均 収穫量率		
城 端 町	1							
	2	1.12	16	A	水 稻 103			
	3	1.32	7	A	" 100	D	大 豆 77	
	4	1.41 2.41 1.42 2.42 1.43 2.43	26					
	5	2.52 3.42 2.53 3.43 3.41	14					
	6	3.53	3					
	7							
	8							
市 町 村 計 ( 地域計 )		66						
平 村	1							
	2							
	3	1.32	1					
	4	1.41 2.41 1.42 2.42 1.43 2.43	35					
	5	1.51 2.43 1.52 2.53 2.42	41					
	6	3.44 3.54 3.45 3.55 3.53	16					
	7							
	8							
市 町 村 計 ( 地域計 )		93						

用 の 現 況							備 考
草 地		林 地				空地その他	
土 地 利 用 占 有 率	草地の種類 および平均 収 穫 量 率	人 工 林		天 然 林			
		土 地 利 用 占 有 率	主 要 樹 種 お よ び 平 均 収 穫 量 率	土 地 利 用 占 有 率	主 要 樹 種 お よ び 平 均 収 穫 量 率		
		D	スギ 98	A	広葉樹ザツ		
		D	スギ 78	A	広葉樹ブナ		
				A	広葉樹ブナ		
		D	スギ 100	A	広葉樹ザツ		
		D	スギ 98	A	広葉樹ザツ		
		D	スギ 78	A	広葉樹ブナ		
				A	広葉樹ブナ		

市 町 村 名	類 地 区 分		土 地 利					
			水 田		畑			
	土地利用 占有率	平均収 穫量率			普 通 畑		樹 園 地	
			土地利用 占有率	主要作物 および平均 収穫量率	土地利用 占有率	主要作物 および平均 収穫量率		
上 平 村	1							
	2							
	3							
	4	1.41 2.42 1.42 2.43 2.41	26					
	5	1.51 3.42 1.52 3.43 2.52	25					
	6	3.44 3.53 3.45 3.54 3.52 3.55	43					
	7							
	8							
市 町 村 計 ( 地域計 )		94						
利 賀 村	1					大豆 38		
	2							
	3							
	4	1.41 2.41 1.42 2.42 2.31 2.43	42	D	水 稻 81			
	5	1.52 2.53 3.43 1.53 3.33 2.52 3.42	94					
	6	3.35 3.53 3.44 3.54 3.45 3.55	40					
	7							
	8							
市 町 村 計 ( 地域計 )		176						



用 の 現 況							備 考
草 地		林 地				空地その他	
土 地 利 用 占有率	草地の種類 および平均 収穫量率	人 工 林		天 然 林		土 地 利 用 占有率	
		土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収穫量率	土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収穫量率		
		D	スギ 98	A	広葉樹ザツ		
				A	広葉樹ブナ		
				A	広葉樹ブナ		
		D	スギ 100	A	広葉樹ザツ		
		D	スギ 96	A	広葉樹ブナ		
		D	スギ 78	A	広葉樹ブナ		

市 町 村 名	類 地 区 分  類地区分および包含される 示 性 式		土 地 利					
			水 田		畑			
					普 通 畑		樹 園 地	
面積	土地利用 占有率	平均収 穫量率	土地利用 占有率	主要作物 および平均 収穫量率	土地利用 占有率	主要作物 および平均 収穫量率		
川 町	1							
	2	1.1 2	6	A	水 稻 9 9			
	3	1.1 3 1.3 2 1.3 3	9	A	" 9 6			
	4	1.4 2 2.4 3 1.4 3 2.4 2	10					
	5	1.5 1 3.4 3 1.5 2 3.4 2	6					
	6							
	7							
	8							
市 町 村 計 ( 地域計 )		31						
井 波 町	1							
	2	1.1 2	13	A	水 稻 1 0 0			
	3	1.3 2	3	A	1 0 0			
	4	1.4 1 2.4 1 1.4 2 2.4 2 1.4 3 2.4 3	5					
	5	2.4 2 2.4 3	4					
	6							
	7							
	8							
市 町 村 計 ( 地域計 )		25						

用 の 現 況							備 考
草 地		林 地				空地その他	
土 地 利 用 占 有 率	草地の種類 および平均 収 穫 量 率	人 工 林		天 然 林			
		土地利用 占 有 率	主 要 樹 種 および平均 収 穫 量 率	土地利用 占 有 率	主 要 樹 種 および平均 収 穫 量 率		
				D	広葉樹ザツ		
		C	スギ 98	B	広葉樹ザツ		
				A	広葉樹ザツ		
		A	スギ 98	D	広葉樹ザツ		
				A	広葉樹ザツ		

市 町 村 名	類 地 区 分  類地区分および包含される示性式		土 地 利					
			水 田		畑			
					普 通 畑		樹 園 地	
面積	土地利用 占有率	平均収 穫量率	土地利用 占有率	主要作物 および平均 収穫量率	土地利用 占有率	主要作物 および平均 収穫量率		
井 口 村	1							
	2	1.12	4	A	水 稻 102			
	3	1.32	2	A	100			
	4	1.41 2.41 1.42 2.42 1.43 2.43	3					
	5	3.42 3.43	3					
	6							
	7							
	8							
市 町 村 計 ( 地域計 )		12						
福 野 町	1							
	2	1.12 1.22	29	A	水 稻 108			
	3	1.13 1.31 1.32	2					
	4							
	5							
	6							
	7							
	8							
市 町 村 計 ( 地域計 )		31						

用 の 現 況							備 考
草 地		林 地				空地その他	
土 地 利 用 占有率	草地の種類 および平均 収 穫 量 率	人 工 林		天 然 林		土 地 利 用 占有率	
		土地利用 占有率	主 要 樹 種 および平均 収 穫 量 率	土地利用 占有率	主 要 樹 種 および平均 収 穫 量 率		
		D	スギ 98				
		A	スギ 98	D	広葉樹ザツ		
		D	スギ 76	A	広葉樹ザツ		
		D	スギ 98				
		C	スギ 98	B	広葉樹ザツ 混交林ア カツマツ・ザツ		

市 町 村 名	類 地 区 分  類地区分および包含される示性式  面 積		土 地 利 用												
			水 田		畑										
					普 通 畑		樹 園 地								
土地利用 占有率	平均収 穫量率	土地利用 占有率	主要作物 および平均 収穫量率	土地利用 占有率	主要作物 および平均 収穫量率										
福 光 町	1	1.11	0												
	2	1.12 1.21 1.22	43	A	水 稻 100										
		3								1.31 1.32 1.33	27	D	" 98	D	大 豆 95
										4					
	5	2.52 3.42 3.43	29												
		6						3.44 3.45	10						
	7														
	8														
市 町 村 計 ( 地域計 )		168													
福 岡 町	1	1.11	0												
	2	1.12	14	A	水 稻 102										
	3	1.13 1.33 1.31 2.32 1.32	14	B	" 98										
		4							1.41 2.33 1.42 1.43	31					
	5														
	6														
	7														
	8														
市 町 村 計 ( 地域計 )		59													

用の現況							備考
草地		林地				空地その他	
土地利用占有率	草地の種類 および平均 収穫量率	人工林 土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収穫量率	天然林 土地利用 占有率	主要樹種 および平均 収穫量率	土地利用 占有率	
		D	スギ 103	B	広葉樹ザツ		
		D	スギ 98	A	広葉樹ザツ		
				A	広葉樹ブナ		
				A	広葉樹ブナ		
		D	スギ 98	D	広葉樹ザツ		
		D	スギ 96	A	広葉樹ザツ		





1973年3月 印刷発行

縮尺20万分の1

土地分類図付属資料

富山県

編集発行 経済企画庁総合開発局国土調査課

印刷 東京製本印刷株式会社

東京都港区西新橋二丁目四番一号

